

資料 2－2

市 張 名

令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報「三重県市町要覧（令和5年度版）」「令和4年度版森林・林業統計書」による

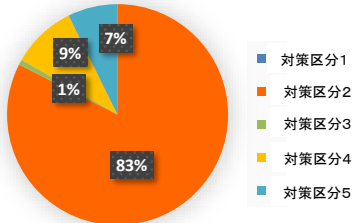
市町名	名張市	三重県
人口（人）	74,380	1,731,863
年少人口割合（％）＊1	11.6％	11.6％
森林面積(ha)	6,827.35	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	6,827.35	348,561.87
森林率(％)	53.0％	64％
都市公園面積（㎡/人口）＊3	13.9	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	2	危険木伐採事業	7,676,326	7,676,326		7,676,326				
2	2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業	169,150	169,150		169,150				
3	2	人家裏危険木伐採事業	1,780,000	1,780,000		1,780,000				
4	2	災害からライフラインを守る事前伐採事業	4,028,200	1,000,000		1,000,000				
5	3	森林環境教育推進事業	100,000	100,000			100,000			
6	4	学校林整備事業	900,000	900,000				900,000		
7	4	屋外体育施設における木製ベンチ等設置事業	317,900	317,900				317,900		
8	5	森林公園等環境活用整備事業	640,000	640,000					640,000	
9	5	桜並木保全管理事業	300,000	300,000					300,000	
計			15,911,576	12,883,376	0	10,625,476	100,000	1,217,900	940,000	0

3. 令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量 (ha・本数)	事業費 (円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	8.5ha	3,025,000	3,025,000	災害緩衝林・特定水源地域整備事業の実施（間伐）名張市 上長瀬、青蓮寺 地内
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業	33本	4,028,200	1,000,000	名張市内 10箇所

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	名張市は、周囲を山々に囲まれた山間盆地であり、林野率は52.7％、人工林率は65.0％で、森林の主体をなす私有林においては、5ha未満の所有者が全体の52.1％を占めている。特に、南部は森林資源が豊富で、かつては優良な木材を産出する地域であったが、最近の社会情勢の変化に伴い伐採適齢期を過ぎても放置されている森林が急増し、里山としての利用すらほとんどなくなっている。 しかし、森林の持つ多様な公益的機能は市民にとってかけがえのない財産であり、名張市が目指そうとする「福祉の理想郷づくり」には欠かせない重要な要素であることから、森林の機能低下を防ぎその向上を図るため、災害に強い森林づくりとして森林整備を進めるとともに、市民が森と緑に触れ合う機会を創出し、森を育む人及び学びの場づくりを進める。
事業実施により期待される効果	「災害に強い森林づくり」に沿った事業の実施により、あまり手入れされることなく放置され、市民の生活圏を脅かしていた森林が整備されたことで、市民がより安心して暮らせるようになる。また、森林への関心が高まる今日、「県民全体で森林を支える社会づくり」に沿った事業の実施により、森林環境教育を推進し、次代を担う子どもたちが森林や緑に対する関心を深めることで森林の重要な役割に気付くきっかけづくりとなる。
情報発信への取組	事業内容やその成果については広報誌及びHP、ラジオ放送により、広く市民に周知している。また、事業実施現場にはのぼり旗や看板を設置することで、みえ森と緑の県民税の存在を最大限周知できるよう努めた。保育・幼稚園、小学校関連の事業については、保護者だより等で事業実施を周知するとともに財源にはみえ森と緑の県民税が活用されていることを記載した。 その他、3月上旬から始まる確定申告にあわせ、名張市役所1階にみえ森と緑の県民税に関するパネルを展示した。また、パネル展示に併せてみえ森と緑の県民税に関するアンケートを設置し、回答いただいた方にクリアファイル・ハンカチ等のグッズを配布することで、市庁舎を訪れる大勢の方に向けて県民税の周知を行い、アンケート結果から今後の事業改善につなげていくことに努めた。

第 1 1 号様式（その 1）（参考資料）

令和 5 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	⑦ その他（森林整備）	330	330
2	⑩ 専門員の雇用	2,331	2,331
3	③ 私有林整備	250	250
4	③ 私有林整備	1,500	1,500
5	③ 私有林整備	2,200	2,200
6	③ 私有林整備	17,369	17,369
7			
8			
9			
10			
	合計	23,980	23,980

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	危険木伐採事業				
事 業 費	7,676,326 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			7,238,312	438,014	0

1. 事業の目的					
市道、通学路等及び市有施設の周辺や緑地（市有地）にあって、倒木の恐れがある危険木の伐採を行い、道路施設・公共施設や市民の財産を保全し、暮らしの安心・安全を確保する。					
2. 事業実績概要					
【事業内容】 市道、通学路、スクールバス通路及び市が所有する公共性・公益性の高い施設（小学校・中学校・保育所・幼稚園・公民館・市民センター・図書館等）の周辺にあって、台風等により倒木の恐れのある危険木の伐採を行った。また、緑地（市有地）にあって、台風等により道路や周辺の人家等に倒木の恐れのある危険木の伐採を行った。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 名張市 【実施箇所及び箇所数】 市内33箇所 【事業量】 危険木伐採267本					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【事業実施により期待される効果】 道路施設・公共施設や人家等への倒木を未然に防ぐことにより、市及び市民の財産の保全を図ることができる。 市道の危険木伐採により、台風時等の道路機能の寸断を防ぎ、避難所への経路が確保される。また通学路等の危険木伐採により子供たちの通学の安全・安心が確保される。さらに、公共・公益施設周辺の危険木伐採により、子供たちの学校等での生活における安全・安心と公民館等利用者の安全・安心が確保される。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 住民からの要望がある箇所で危険度の高いところを選定し事業を実施した。 【新たな対策・視点及び改善点】 危険木の伐採にあたり一律に根元から伐採することは避けるなど、状況に応じた伐採方法を柔軟に選択する。					

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	危険木伐採事業				
事 業 費	7,676,326 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			7,238,312	438,014	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	造園業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

道路に面した森林において、高度な技術を要する特殊伐採を実施するため、地元造園業者等へ委託した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	危険木伐採箇所を通行する名張市民多数
期待する波及効果	通行人からの波及効果が期待される

【公的関与の必要性】

道路管理として公的に取り組む必要がある

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

道路管理者が適切に管理する

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	事業実施箇所
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
事業名	危険木伐採事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木伐採	クレーン車使用	本	12.00	253,000	253,000	名張市 つつじが丘北8番町 地内
危険木伐採		本	2.00	36,300	36,300	名張市 梅が丘南5番町 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	2.00	147,400	147,400	名張市 中知山 地内
危険木伐採		本	3.00	200,000	200,000	名張市 西田原 地内
危険木伐採		本	4.00	259,600	259,600	名張市 桔梗が丘1番町 地内
危険木伐採		本	2.00	93,500	93,500	名張市 桔梗が丘4番町 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	2.00	223,300	223,300	名張市 蔵持町原出 地内
危険木伐採		本	2.00	99,000	99,000	名張市 富貴ヶ丘6番町 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	10.00	298,100	298,100	名張市 つつじが丘南5番町 地内
危険木伐採		本	3.00	143,000	143,000	名張市 桔梗が丘5番町 地内
危険木伐採		本	6.00	184,800	184,800	名張市 梅が丘北4番町 地内
危険木伐採		本	8.00	280,500	280,500	名張市 富貴ヶ丘4番町 地内
危険木伐採		本	5.00	268,400	268,400	名張市 桔梗が丘西4番町 地内
危険木伐採	クレーン車使用	本	5.00	297,000	297,000	名張市 鴻之台 地内
危険木伐採		本	3.00	169,400	169,400	名張市 桔梗が丘5番町 地内
危険木伐採		本	2.00	146,300	146,300	名張市 池の代東 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	2.00	88,000	88,000	名張市 桔梗が丘西6番町 地内
危険木伐採		本	2.00	297,000	297,000	名張市 すずらん台西2番町 地内
危険木伐採		本	3.00	297,000	297,000	名張市 青蓮寺 地内
危険木伐採		本	4.00	235,070	235,070	名張市 安部田 地内
危険木伐採	クレーン車使用	本	3.00	297,000	297,000	名張市 東田原 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	3.00	297,000	297,000	名張市 美旗中村 地内
危険木伐採		本	18.00	297,000	297,000	名張市 夏見 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	10.00	297,000	297,000	名張市 桔梗が丘6番町 地内
危険木伐採		本	5.00	244,306	244,306	名張市 桔梗が丘7番町 地内
危険木伐採		本	8.00	460,900	460,900	名張市 桜ヶ丘 地内
危険木伐採		本	1.00	222,200	222,200	名張市 百合が丘 地内
危険木伐採		本	2.00	150,000	150,000	名張市 すずらん台 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	21.00	211,200	211,200	名張市 桔梗が丘 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	8.00	265,650	265,650	名張市 下比奈知 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	6.00	363,000	363,000	名張市 蔵持町原出 地内
危険木伐採		本	27.00	291,500	291,500	名張市 百合が丘 地内
危険木伐採		本	73.00	262,900	262,900	名張市 百合が丘西5番町 地内 30cm×16本、20-30cm×19
		合計			7,676,326	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

7の(1). 写真



写真1

桜ヶ丘地内（施工前）



写真2

桜ヶ丘地内（施工後）



写真3

百合が丘地内（施工前）



写真4

百合が丘地内（施工後）



写真5

すずらん台地内（施工前）



写真6

すずらん台地内（施工後）

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事 業 費	169,150 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			169,150	0	0

1. 事業の目的

森林所有者による未利用間伐材の利用を推進することにより、木質バイオマス資源の活用を図ると共に、森林の健全化を図る。

間伐材の搬出困難等で森林内に放置されている未利用間伐材を名張市内の森林から搬出及び運搬する経費を助成することで搬出を促進し、木質バイオマス燃料として活用するとともに、森林の持つ多面的機能の向上を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

木質バイオマスの利用促進を図るため、未利用間伐材を名張市内の山林から伊賀管内の F I T に基づく木質バイオマス燃料買取実施場所までの搬出及び運搬に要する経費を助成した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

事業に参画する林家

【実施個所及び箇所数】

補助事業実施者：4名

整備が行われた山林：4箇所

【事業量】

未利用間伐材の搬出 67.66t

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

- ・利用率の低い未利用間伐材のバイオマス資源利用が推進される。
- ・森林の健全化、未利用残材の処理を推進することにより災害時の林地残材の流失防止に繋がる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

特になし

【新たな対策・視点及び改善点】

特になし

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事 業 費	169,150 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			169,150	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	個人	定額補助	2,500円/t	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】 申請があった個人を対象とした。 【主な経費内訳】 (別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	市民・県民多数			
期待する波及効果	森林整備が行われることによる森林の多面的機能の向上			
【公的関与の必要性】 木材価格が下落した昨今において、木材の搬出に公的関与が必要となる。 【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 林家個人が適切に管理する。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	3.66	2,500	9,150	
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	2.45	2,500	6,125	
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	2.87	2,500	7,175	
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	58.68	2,500	146,700	
		合計			169,150	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

7の(1). 写真



写真1

伐採作業写真



写真2

搬入状況写真



写真3

搬入状況写真



写真4

搬入状況写真



写真5

搬出状況写真



写真6

搬入状況写真

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
3	人家裏危険木伐採事業				
事業費	1,780,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			920,638	859,362	0

1. 事業の目的
人家裏にある危険木を伐採することで、災害を未然に防止し住民の通常の暮らしの安心・安全を図る。
2. 事業実績概要
【事業内容】 人家裏にあり、災害時等に倒木の危険がある木で、おおむね樹高が人家と木との距離以上の木の伐採について、伐採に要する費用のうち 1 本あたり 10,000 円以内で助成を行った。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 地域住民 9 戸 【実施個所及び箇所数】 9 件 【事業量】 178 本の危険木を伐採
3. 有効性【2 つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
【事業実施により期待される効果】 災害時等に人家に危険を及ぼす恐れのある樹木の伐採により、災害を未然に防止し、住民の通常の暮らしの安心・安全が確保される。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 特になし 【新たな対策・視点及び改善点】 特になし

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	人家裏危険木伐採事業				
事 業 費	1,780,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			920,638	859,362	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	個人	定額補助	1件 上限 300,000円 1本当たり10,000円以内	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった個人を対象とした。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市民・県民多数
期待する波及効果	森林整備が行われることによる森林の多面的機能の向上

【公的関与の必要性】

市民の生命及び安全な暮らしを守るために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

個人が適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
広報誌掲載	実施前	市の広報誌（広報なばり）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
事業名	人家裏危険木伐採事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木伐採		本	15.00	10,000	150,000	
危険木伐採		本	12.00	10,000	120,000	
危険木伐採		本	6.00	10,000	60,000	
危険木伐採		本	30.00	10,000	300,000	
危険木伐採		本	30.00	10,000	300,000	
危険木伐採		本	5.00	10,000	50,000	
危険木伐採		本	30.00	10,000	300,000	
危険木伐採		本	20.00	10,000	200,000	
危険木伐採		本	30.00	10,000	300,000	
	合計		178		1,780,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

東田原区（施工前）



写真2

東田原区（施工後）



写真3

布生地内（施工前）



写真4

布生地内（施工後）

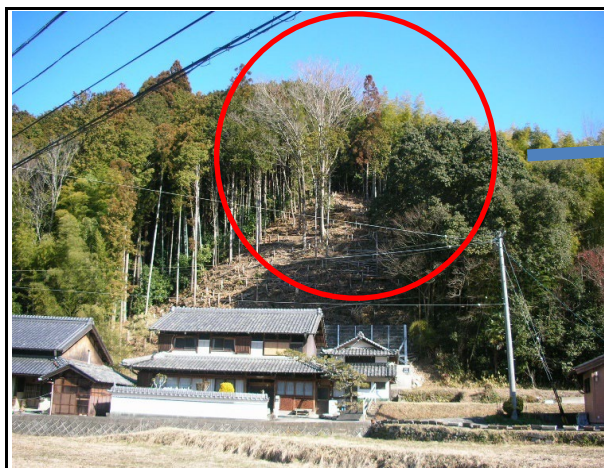


写真5

上比奈知地内（施工前）



写真6

上比奈知地内（施工後）

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
4	災害からライフラインを守る事前伐採事業					
事業費	4,028,200 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			1,000,000	0	3,028,200	

1. 事業の目的
電力会社等と市町及び県が連携して、台風等における倒木被害からライフラインを守るため、危険木と想定される立木等の事前伐採を行い、安心安全な市民生活を確保する。
2. 事業実績概要
【事業内容】 各地区の要望等を把握し、電力会社等及び三重県と連携して、台風などの倒木被害によりライフラインを寸断する恐れのある危険木の事前（計画）伐採を実施した。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 名張市 【実施個所及び箇所数】 10箇所（名張市地内） 【事業量】 名張市内10箇所、33本伐採
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
【事業実施により期待される効果】 電力会社と行政が連携して事前伐採を行うことにより、倒木被害の予防・低減に貢献することで地域住民の安全・安心な生活を確保することができる。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 危険性の高い樹木から優先し伐採を行った。 【新たな対策・視点及び改善点】 大規模な整備を行う場合、森林所有者調査において市町の負担が大きく、ひとりでも承諾を得られない場合は、事業実施が困難になる場合が想定される。今後はライフラインを寸断する可能性のある立木を小規模の範囲で危険度に応じ、伐採していくことが必要である。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
4	災害からライフラインを守る事前伐採事業				
事業費	4,028,200 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,000,000	0	3,028,200

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	林業事業体	補助事業ではない		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
1社随意契約				
【主な経費内訳】				
(別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	森林所有者、電力の供給領域で生活する市民・県民			
期待する波及効果	道路を通る住民への波及効果も期待できる			
【公的関与の必要性】				
住民の生命に関わるライフラインの保全のために公的関与の必要がある。				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】				
施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
のぼり設置	実施中	実施箇所		
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
事業名	災害からライフラインを守る事前伐採事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木伐採		式	1.00	4,028,200	4,028,200	名張市地内 伐採本数33本
		合計			4,028,200	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	災害からライフラインを守る事前伐採事業
-----	---------------------

7の(1). 写真



写真1

市道夏見青蓮寺線（施工前）



写真2

市道夏見青蓮寺線（施工後）



写真3

市道梶原線（施工前）



写真4

市道梶原線（施工後）



写真5

市道羽根神屋線（作業写真）



写真6

市道赤目滝竜口線（作業写真）

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
5	森林環境教育推進事業				
事業費	100,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			100,000	0	0

1. 事業の目的					
全国的に森林環境教育の重要性が高まる中で、初等教育の過程において森林・自然への理解や関心を高めるため、小学校と地域づくり組織が共同で森林教育を行う。					
2. 事業実績概要					
【事業内容】					
小学生を対象に自然環境の大切さと里山の役割、またその保全の取り組みに理解を深めることを目的として、東山ふれあいの森において、自然環境等に関するクイズラリーをしながら散策し、学習の場とした。					
【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】					
市内地域づくり組織（桔梗が丘自治連合協議会）					
【実施個所及び箇所数】					
1校（桔梗が丘南小学校）					
【事業量】					
1校 補助事業費：100,000円					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【事業実施により期待される効果】					
森林環境教育を受けた子ども達が、森林・自然への理解と関心を深めることができる。活動経費の補助により森林環境教育を実施する機会が増加する。					
また、本事業を実施するにあたりボランティアスタッフも森林・自然への理解と関心を深める機会となり、地域づくり組織が率先して地域の小学生と交流する場となる。					
【効果を発揮させるための工夫・取組】					
地域住民への波及効果を期待しボランティアスタッフの動員数を増やした					
【新たな対策・視点及び改善点】					
森林教育を通して、小学生、保護者が地域づくり組織と交流する場が確保されることは、地域にとって有意義な活動であるとともに、初等教育において里山等への関心を深める活動は貴重な経験となる。クイズラリーに関しては、毎年異なった問題が出題されており、地域づくり組織の工夫も感じられる。また、記念品として、参加した小学生にクリアファイル贈呈を行ったり、事業完了後、事業内容や参加した小学生の感想等をまとめた冊子の制作も行っている。これらのことから、今後も継続して実施する必要がある。					

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
5	森林環境教育推進事業				
事 業 費	100,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			100,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	地域協議会等	定額補助	1件当たり 100,000円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった団体を対象とした。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	桔梗が丘南小学校児童約125名、教員及びボランティアスタッフ約46名
期待する波及効果	保護者等への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

森林環境教育を充実させるために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施前・中・後	実施箇所（森林公園内）
のぼり設置	実施中	実施箇所（森林公園内）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場
啓発物品配布	実施中	クリアファイル
アンケート実施	実施後	小学生を対象に感想をとりまとめて冊子を製作

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市
事業名	森林環境教育推進事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
桔梗が丘自治連合協議会	資材等購入費	式	1.00	100,000	100,000	クリアファイル等
		合計			100,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育推進事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

フィードワーク出発前 (11/8)



写真2

フィードワーク出発前 (11/8)



写真3

クイズラリーの設置 (11/8)



写真4

チェーンソーの使い方を学ぶ (11/8)



写真5

里山の木の説明 (11/8)



写真6

里山からの風景を眺める (11/8)

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
6	学校林整備事業				
事業費	900,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			900,000	0	0

1. 事業の目的					
これまで放置され、荒廃が進んでいる学校林を整備することにより、小学生が学校生活において森林に親しむ豊かな環境を再生し、森林や緑に対する理解を深める場として活用する。					
2. 事業実績概要					
【事業内容】 事業内容は次の通り。 ①薦原小学校林：薦原小学校林において、子どもたちが学習しやすくするため、遊歩道及び散策路等の整備を行った。また、充実した活動を行えるよう学校林内にある木材を活用した遊具を増設した。また、学校林探検、森林環境学習等を実施し、木育の推進を行った。 ②すずらん台小学校林：「学習の森（小学校内学校林）」において、子どもたちがより安全に活動できるように学校林内にある散策路コースの整備、倒木の整理及び搬出、遊歩道階段の修復等を行った。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 市内地域づくり組織（薦原地域づくり委員会、地縁法人すずらん台町づくり協議会） 【実施個所及び箇所数】 市内2箇所 【事業量】 薦原小学校林：遊歩道及び散策路等の整備、遊具の増設 学校林面積 1,334㎡ 400,000円 すずらん台小学校林：散策路コースの整備、倒木の整理及び搬出、腐食した木製ステージの解体等 学校林面積 約1ha 500,000円 計900,000円					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【事業実施により期待される効果】 子ども達が学校生活において森林に親しむことができる環境を整備することで、森林や緑に対する理解を深める機会を創出できる。また、PTAや地域住民の利活用も期待される。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 学校林の整備と併せて、森林教育活動を実施することで、より効果的な取組とした。 【新たな対策・視点及び改善点】 森林に触れる経験は児童にとって重要かつ有意義なものであり、児童が安心して学習できる学校林を維持するために今後も継続して実施する必要がある。					

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
6	学校林整備事業				
事業費	900,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			900,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	地域協議会等	定額補助	1件当たり 500,000円	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
申請があった団体を対象とした。				
【主な経費内訳】				
(別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	学校林を活用する児童 約350名、教員及びPTA、ボランティアスタッフ 約200名			
期待する波及効果	保護者等への波及効果も期待できる			
【公的関与の必要性】				
森林環境教育の充実及び学校林を活用する児童の安全を確保するために公的関与の必要がある。				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】				
学校と学校林整備を行う団体が適切に管理する。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
標識・標柱等設置	実施前・中・後	整備箇所（学校林内）		
のぼり設置	実施中	整備箇所（学校林内）		
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市
事業名	学校林整備事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
薦原小学校林	山林整備工事	式	1.00	340,000	340,000	
	用具購入費	式	1.00	48,000	48,000	
	森林環境教育講師謝礼	式	1.00	12,000	12,000	
すずらん台小学校林	森林保全作業費	式	1.00	500,000	500,000	
		合計			900,000	

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	学校林整備事業
-----	---------

7の(1). 写真



写真1

薦原小学校林



写真2

薦原小学校林



写真3

薦原小学校林



写真4

すずらん台小学校林(倒木整理と搬出)



写真5

すずらん台小学校林(重機での整地後)



写真6

すずらん台小学校林(遊歩道階段の設置)

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	リニューアル
番 号	事 業 名				
7	屋外体育施設における木製ベンチ等設置事業				
事 業 費	317,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			317,900	0	0

1. 事業の目的					
名張市内のテニスコートに三重県産材を活用した木製ベンチ等を設置することを通じて、市民に森の働きや木材利用の重要性について、学び・ふれる場を提供することで、積極的に森林や木々に関わることができる学びの場を作った。					
2. 事業実績概要					
【事業内容】 市内の「つつじが丘公園」内及び「薦原公園」のテニスコートにおいて、利用者が触れる頻度の最も高いベンチ及び審判台を県産材を活用し設置した。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 名張市市民スポーツ室 【実施個所及び箇所数】 2地区（名張市つつじが丘・名張市薦原） 【事業量】 2地区・名張市つつじが丘 152,900円 ・名張市薦原 165,000円					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【事業実施により期待される効果】 名張市内の公園内テニスコートベンチ等を、三重県産材を使用し更新することを通じ、名張市民に森林や木材について、学び・ふれあう場を提供し、森と県民との関係を深められることはもとより、当該利用者数の増加により、名張市が掲げる生涯スポーツ社会の実現に寄与することが期待できる。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 三重県産材を使用することで、市民が県産材に触れ合う機会を創出した。 【新たな対策・視点及び改善点】 名張市体育施設は、屋外施設が点在しており、同様の状況となっていることから、今後も当該事業を活用することを通じ、名張市民に森林や木材について、学び・ふれあう場を提供し、森と県民との関係を深められるよう、取り組んだ。					

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	リニューアル
番号	事業名				
7	屋外体育施設における木製ベンチ等設置事業				
事業費	317,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			317,900	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
工事請負	登録者	10/10以内		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
登録者による				
【主な経費内訳】				
(別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	テニスコート利用者・地域住民 約100名			
期待する波及効果	県産材を使用することにより、地域住民が県産材に触れ合う機会を創出する。			
【公的関与の必要性】				
三重県産材を使用し更新することを通じ、名張市民に森林や木材について、学び・ふれあう場を提供し、森と県民との関係を深められることができ、当該利用者数の増加により、名張市が掲げる生涯スポーツ社会の実現				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】				
転用や目的外使用は想定されない。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市
事業名	屋外体育施設における木製ベンチ等設置事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
工事請負費	つつじが丘運動公園ベンチ等修繕	式	1.00	152,900	152,900	ベンチ4台、審判台1台
工事請負費	薦原公園テニスコートベンチ	式	1.00	165,000	165,000	ベンチ2台
		合計			317,900	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	リニューアル
------	-------------------	-----	-----	---------	--------

事業名	屋外体育施設における木製ベンチ等設置事業
-----	----------------------

7の(1). 写真



写真1

つつじが丘運動公園ベンチ（施工前）



写真2

つつじが丘運動公園ベンチ（施工前）



写真3

つつじが丘運動公園ベンチ（完成）



写真4

つつじが丘運動公園ベンチ（完成）



写真5

薦原公園テニスコートベンチ（施工前）



写真6

薦原公園テニスコートベンチ（完成）

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
8	森林公園等環境活用整備事業				
事業費	640,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			640,000	0	0

1. 事業の目的
市民の憩いの場である森林公園などを地域住民らによるボランティアで整備することにより、住民の森林や緑に対する理解をさらに深めるとともに、自然に親しむ豊かな生活環境を作る。
2. 事業実績概要
【事業内容】 事業内容は次の通り。 ①東山ふれあいの森：多くの住民が自然に親しむ公園として利用できるよう、遊歩道付近における立木の剪定、除去、除草作業を行った。 ②桔梗が丘地内の森林公園：森林環境教育や地域のイベントなどに利用できるよう、地域内の自然公園において、枯れ木の伐倒処理、自然植生の保護、遊歩道の整備、除草作業、植樹を行い、保全管理作業を行った。 ③箕曲地内の森林：箕曲地内の森林（箕曲小学校付近）を森林公園として利用できるよう、遊歩道の整備、古木の管理、地域住民参加で植樹を行った。また、憩いの場作りのためのベンチを設置した。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 市内地域づくり組織（ひなち地域ゆめづくり委員会、桔梗が丘自治連合協議会、箕曲地域づくり委員会、） 【実施個所及び箇所数】 市内3箇所 【事業量】 東山ふれあいの森 遊歩道付近における立木の剪定、除去、除草作業（延べ作業人数12名） 桔梗が丘地内の森林公園 枯れ木の伐倒処理、自然植生の保護、遊歩道の整備、除草作業、植樹（14名のスタッフにて年間21回の保全活動） 箕曲地内の森林 遊歩道の整備、古木の管理、地域住民参加で植樹（延べ作業人数32名）
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
【事業実施により期待される効果】 森林公園の整備を住民主体の地域づくり活動の一環として実施することにより、森林への理解、関心、愛着や親しみが生まれ、それによって優しく森林公園を利用し、市民が心豊かな生活が送れることができる環境が整備される。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 住民が自ら事業を実施することで森林が身近に感じられるよう工夫した。 【新たな対策・視点及び改善点】 市民が利用しやすいように市内の森林公園の大半が当事業によって整備され、また利用する市民も多いため今後も継続して実施する必要がある。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
8	森林公園等環境活用整備事業				
事 業 費	640,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			640,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	地域協議会等	定額補助	上限300,000円	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】 申請があった地区を対象とした。 【主な経費内訳】 (別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	地域住民及び公園利用者並びにボランティア参加者 約18,000人			
期待する波及効果	地域住民からの波及効果が期待される			
【公的関与の必要性】 森林公園は地域協議会等が管理しているが、管理費用等は協議会負担であり、整備を充実させるためには公的関与が必要となる。 【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 購入した備品は公園管理にのみ使用し、地域協議会等が適切に管理する。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
のぼり設置	実施中	事業実施箇所		
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
事業名	森林公園等環境活用整備事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
ひなち地域ゆめづくり委員会	立木の剪定、除去、除草作業	式	1.00	100,000	100,000	チップソー、鎌、ノコギリ等購入
桔梗が丘自治連合協議会	枯れ木の伐倒処理、自然植生の保護、遊歩道の整備、除草作業、植樹	式	1.00	240,000	240,000	チェーンソー部品、ベンチグラインダー、ヤスリ等購入
箕曲地域づくり委員会	ベンチの設置、古木の管理、地域住民参加で植樹	式	1.00	300,000	300,000	苗木、草刈機、除草剤等購入
		合計			640,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林公園等環境活用整備事業
-----	---------------

7の(1). 写真



写真1

東山ふれあいの森(ひなち地域ゆめづくり委員会)

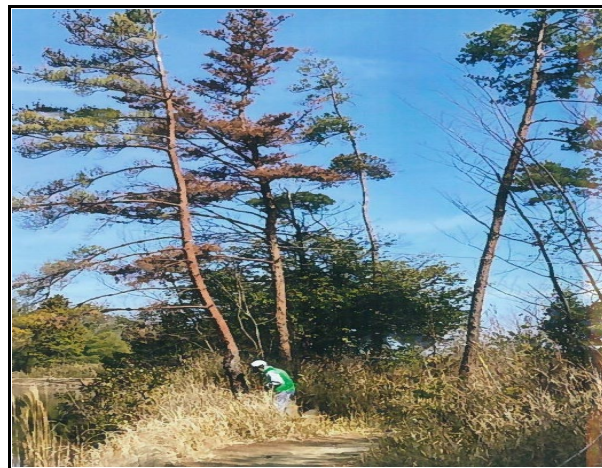


写真2

桔梗が丘地内の森林公園(桔梗が丘自治連合協議会)



写真3

森林公園での作業の様子(桔梗が丘自治連合協議会)



写真4

重機を使い、古木の伐採



写真5

草刈りの様子



写真6

憩いのベンチ設置

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
9	桜並木保全管理事業				
事業費	300,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			300,000	0	0

1. 事業の目的					
毎年多くの市民が参加する「名張桜まつり」の会場である名張中央公園の桜並木の樹勢が衰え、開花状況が悪くなっている。 そこで、名張中央公園の桜並木に地域住民らがボランティアとして、専門家（樹木医）の意見を参考に施肥することにより、住民の森林や緑を思う気持ちの醸成を図り、身近な緑に親しめる環境を整備する。					
2. 事業実績概要					
【事業内容】 名張桜まつり実行協議会主体のもと、名張中央公園内道路の歩道に植樹された桜約800本の内、特に被害が出ている樹について、周辺への堆肥の散布、表面のカビ・コケ類の除去、枯れ木の除去等のメンテナンスを実施した。また、新たに1本の植樹を行った。2/10には「桜満開プロジェクト」として、実施主体の協議会運営委員とともに地域ボランティアも参加し、作業を行った。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 名張中央公園で桜並木の保全管理を実施する団体（名張桜まつり実行協議会） 【実施個所及び箇所数】 1箇所（名張中央公園内） 【事業量】 保全活動 300,000円 内 堆肥 200,000円（約800本のうちメンテナンスが必要な樹木対象） 植樹 100,000円 1本・切り株抜根3本					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【事業実施により期待される効果】 桜並木の保全管理を通して、森林を思う気持ちの醸成や樹木も適切に管理しなければ枯れてしまうこと、身近な森林に親しむためには手入れが必要であることが実感できる機会を創出する。さらに、森の働きや森林の手入れの重要性等について講義を行うことで森林への理解をより深めることができる。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 「桜満開プロジェクト」において、地域住民への呼びかけを行うことで、桜並木を思う気持ちの醸成を図った。 【新たな対策・視点及び改善点】 より多くの住民に県民税の周知を図るには、多くの住民が来場する「名張桜まつり」での県民税のPRを行うことが重要であり、次年度は関係団体と調整し、PRを行う。					

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
9	桜並木保全管理事業				
事 業 費	300,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			300,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	定額補助	1件当たり 300,000円	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
申請があった団体を対象とした。				
【主な経費内訳】				
(別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	「桜満開プロジェクト」及び「名張桜まつり」の参加者 30,000人（見込み）			
期待する波及効果	「名張桜まつり」の参加者への波及効果も期待できる			
【公的関与の必要性】				
桜並木の保全及び市民の森林を思う気持ちの醸成ために公的関与の必要がある。				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】				
施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
標識・標柱等設置	実施前・中・後	実施箇所（名張中央公園内）		
のぼり設置	実施中	実施箇所（名張中央公園内）		
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
事業名	桜並木保全管理事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金	堆肥代	式	1.00	200,000	200,000	
補助金	抜根・植樹	式	1.00	100,000	100,000	
		合計			300,000	

S

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	桜並木保全管理事業
-----	-----------

7の(1). 写真



写真1

保全活動の様子（名張中央公園）



写真2

保全活動の様子（名張中央公園）



写真3

保全活動の様子（名張中央公園）



写真4

保全活動の様子（名張中央公園）



写真5

保全活動の様子（名張中央公園）

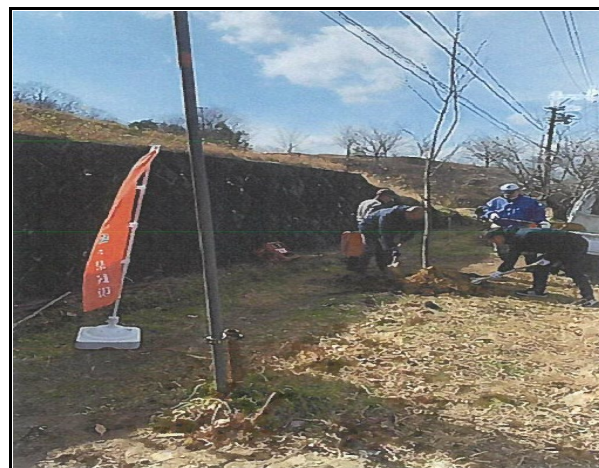


写真6

保全活動の様子（名張中央公園）

資料 2－2

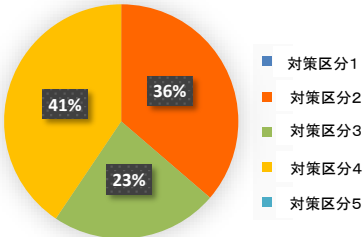
伊 賀 市

令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報「三重県市町要覧（令和5年度版）」「令和4年度版森林・林業統計書」による

対策区分別事業費割合

市町名	伊賀市	三重県
人口（人）	85,087	1,731,863
年少人口割合（％）＊1	10.4%	11.6%
森林面積(ha)	33,870.24	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	32,565.94	348,561.87
森林率(%)	61.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	12.5	10.6



- ＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合
＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）
＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

2. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分 1	対策区分 2	対策区分 3	対策区分 4	対策区分 5	基金積立
1	2	みんなの里山整備活動推進事業	7,520,840	7,520,840		7,520,840				
2	2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業	2,558,280	2,558,280		2,558,280				
3	3	木づかい木育推進事業	2,705,786	2,705,786			2,705,786			
4	3	伊賀の森っこ育成推進事業	3,456,446	3,456,446			3,456,446			
5	3	地域の森と緑のつながり支援事業	59,234	59,234			59,234			
6	3	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）	200,000	200,000			200,000			
7	4	幼児教育・保育施設木製遊具整備事業	11,266,420	11,266,420				11,266,420		
計			27,767,006	27,767,006	0	10,079,120	6,421,466	11,266,420	0	0

3. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	41箇所、97.05ha	33,605,000	33,605,000	現地調査及び間伐実施
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	当市の森林面積率は、61％であり、周囲が森林に囲まれた立地にある。そのような背景を踏まえ、災害に強い森林づくりと住民全体で森林を支える仕組みづくりの両立を図ることが必要であることから、暮らしに身近な森林を住民自らの手で整備する事業を推進するとともに、木育を始めとして森林や緑を大切に思う人づくりに繋がる教育活動を支援する事業を推進している。
事業実施により期待される効果	みんなの里山整備活動推進事業では、事業を通して地域の山林として位置づけることで、維持管理する方向性が地区等で広がっている。また伊賀の森っこ育成推進事業においては、子ども達が森のはたらきや林業について学習することができ、森林環境や木材等に関して知識理解を深めることにつながっている。幼児教育・保育施設への木製遊具整備事業では、幼児期に木製遊具に触れることで木の温もりを実感することができ、木とふれあい、木製遊具で遊ぶことで、五感を刺激し感性を磨き、好奇心・集中力を高める効果が期待される。
情報発信への取組	【みんなの里山】各区長への郵送による事業の周知を行った。【木づかい木育・伊賀の森っこ】校長会で事業の周知を行った。【地域の森】各市民センターへのメール送付により事業の周知を行った。【木製遊具整備】遊具設置について報道機関による報道がされた。 ・本県民税の趣旨は、本県民税のミニのぼりを伊賀市において制作し、農林振興課窓口へのミニのぼりの設置に併せ、本県民税パンフレットを配置した。 ・木づかい木育推進事業によるフォトフレーム配布の際に、木育・森林・本県民税のことについてアンケートを実施した。

第 1 1 号様式（その 1）（参考資料）

令和 5 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	② 意向調査	4,400	4,400
2	③ 私有林整備	3,190	3,190
3	③ 私有林整備	30,360	30,360
4	⑪ 新たな組織の設立	1,257	1,257
5	⑦ その他（森林整備）	12,464	12,464
6	⑦ その他（森林整備）	1,474	1,474
7	⑦ その他（森林整備）	1,534	1,534
8	⑥ 林道・林専道の整備等	6,891	6,891
9	⑬ 木造公共建築物の整備等	437	437
10	⑯ その他（木材・普及啓発関係）	113	113
11	⑰ 基金積立（森林整備等）	10,123	10,123
	合計	72,243	72,243

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	みんなの里山整備活動推進事業				
事 業 費	7,520,840 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,700円	7,516,140円	0

1. 事業の目的

地域住民の主体的な参加のもと、地域や生活に密着した緑の環境づくりや里山・竹林を再生するために自治会等が行う活動に対して支援することにより、身近な里山環境を豊かにすること及び地域住民による持続的な森を支える社会づくりの形成を目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

緑の環境づくりや生活に密着した里山の再生、荒廃竹林や危険木伐採を行う自治会等の地域ボランティア活動に対して、その活動に必要な費用を補助金（上限250,000円/団体）として交付する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

地域住民が組織する自治会等の団体

【実施箇所及び箇所数】

34箇所

【事業量】

支援地域団体数：34団体 整備面積：22.76ha

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

既存の森林整備事業では整備が難しい暮らしに身近な里山等の整備を、地域住民の作業によって実施できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

地域住民のボランティアによる地域の里山・竹林・緑地の管理及びこれらの関連施設の管理を年間2回以上行うことを事業要件としていること。

【新たな対策・視点及び改善点】

当事業の趣旨は、地域住民が当事業に積極的に参加することであることを再度周知徹底し、より良い制度運用を行なっていただく。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	みんなの里山整備活動推進事業				
事 業 費	7,520,840 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,700円	7,516,140円	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	自治会等	定額補助	25万円/団体	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

補助金交付申請により、事業目的に沿ったものであるか判断した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	受益者：市内住民 活動団体数：34団体 活動参加人数：延べ1230人
期待する波及効果	地域の人々が身近な森林の整備を行うことで、幅広い人に森林への興味関心を育むことが出来る。

【公的関与の必要性】

地域の里山等として整備するため、特定の個人への利益となるものでなく、公的な支援が妥当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

地域共有の場としての里山等を事業対象としているため、転用等は想定されない。

持続管理する必要性について指導している。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・中・後	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。
チラシ配布	実施前	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。
のぼり設置	実施中	必要に応じて、事業箇所に県民税ののぼりを設置し、周辺住民へのPRを図った。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

住民参加による森林整備の必要性に対する理解が深まり、継続的に取り組みたいとの声が多かった。

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
事業名	みんなの里山整備活動推進事業		

4. 効率性：主な経費内訳

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
みんなの里山整備活動推進事業補助金	団体	34	上限250,000円	7,371,680	
卓上及び通常のぼり旗購入(消耗品費)				149,160	
事業費				7,520,840	

作業内容	名称	人数	整備面積	活動内容	補助金額	備考
みんなの里山整備活動推進事業一覧	北山区	18	0.4	支障木除去	250,000	
	中矢区	65	2.4	支障木除去	250,000	
	坂下区	46	1.2	支障木除去	250,000	
	法花区	78	0.7	支障木除去・登山道整備	250,000	
	西山自治会	64	0.5	桜木及び竹林伐採	250,000	
	大江区	36	0.2	危険木・支障木除去	250,000	
	鍛冶屋自治会	20	0.1	支障木除去	99,000	
	妙楽地区	90	0	支障木除去	250,000	
	霧生区	66	1.2	支障木除去	230,000	
	種生区	19	0.6	支障木除去	250,000	
	広瀬区	16	0.5	支障木除去	151,000	
	伊勢路区	25	0.0064	支障木除去	210,000	
	四十九町自治会	10	0.01	支障木除去	250,000	
	小杉区	90	0.6	支障木除去	87,000	
	瀧区	20	0.1	支障木除去	236,000	
	勝地区	100	2	危険木・支障木除去	249,000	
	猪田大東区	18	0.5	危険木・支障木除去	55,000	
	東高倉区	34	5.5	竹林伐採・整備	250,000	
	大内区	20	0.5	支障木除去	250,000	
	音羽区	35	0.6	支障木除去	250,000	
	御代区	30	0.03	竹林伐採・整備	69,000	
	下友生区	24	0.05	桜並木の保全	250,000	
	波敷野区	27	0.2	支障木除去	250,000	
	向芝自治会	25	0.2	支障木除去	188,680	
	友生地区住民自治協議会	29	0.02	竹林伐採・整備	250,000	
	桐ヶ丘5丁目自治会	10	0.5	危険木・支障木除去	250,000	
	東谷区	65	0.3	支障木除去	250,000	
	大道区	20	0.3	竹林伐採・整備	250,000	
	桐ヶ丘7丁目自治会	9	0.06	危険木・支障木除去	219,000	
	界外区	30	0.1	危険木除去・竹林整備	204,000	
	喰代区	25	3	支障木除去	166,000	
	上野ニュータウン自治会	10	0.1	支障木除去	208,000	
	西高倉自治会	42	0.08	支障木除去	250,000	
	千貝区	14	0.2	支障木除去	250,000	
	計	1,230	22.76		7,371,680	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	みんなの里山整備活動推進事業
-----	----------------

7の(1).写真

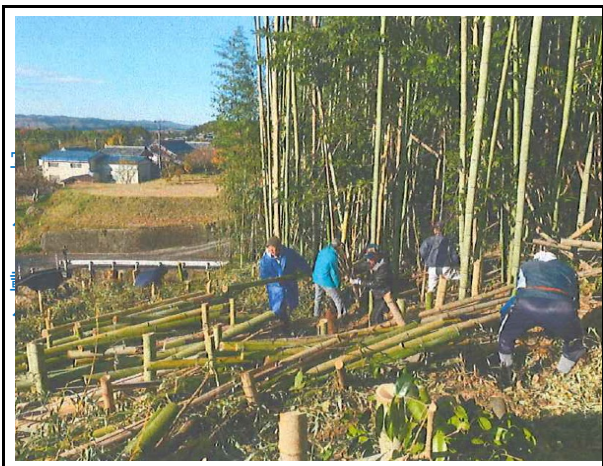


写真1

竹林の整備



写真2

草刈り



写真3

伐採樹木の搬出



写真4

支障木の伐採



写真5

森林整備



写真6

伐採樹木の搬出

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
事業名					

7の(2). その他資料

city.iga.jp/0000006648.html

今後、Google Chrome のアップデートを受信するには、Windows 10 以降が必要となります。このパソコンでは Windows 8.1 が実行されています。

伊賀市Iga City

English 中文 Português Español

Google 検索

文字サイズ 標準 拡大

読み上げ 読み上げ設定

やさしいほんご

トップ

防災・暮らし

健康・福祉

教育・文化スポーツ

観光情報

市政情報

現在位置

トップ

市政情報

市の計画・取り組み

各種施策

あしあと

地域主体の「みえ森と緑の県民税」関連事業

[公開日：2023年5月1日] [更新日：2023年5月1日] ID:6648

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

シェア ツイート LINEで送る

地域主体の暮らしに身近な森林づくりや森を育む人づくりを応援します。伊賀市では「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」として、主に住民自治協議会、自治会（区）を対象に以下の事業の募集を行っています。

令和5年度 みんなの里山整備活動推進事業補助金

1. 実施主体

自治会（区）等

2. 実施期間

交付決定日から令和6年2月末日

3. 事業内容

自治会（区）等の地域住民のボランティアによる地域の里山・竹林・緑地の管理およびこれらの関連施設の管理を2回以上行う活動

4. 事業目的

暮らしに身近な里山を地域住民みんなの里山として管理し、次世代に受継ぎ、持続的な里山の保全管理を推進する。

※詳しくはみんなの里山整備活動事業推進事業補助金の概要をご確認ください。事業の実施には、各要件がありますので、事前に農林振興課計画係までお問い合わせください。

添付ファイル

令和5年度 みんなの里山整備活動推進事業概要 (PDF形式、651.33KB)

様式集 (ワード形式、28.78KB)

様式集【記入例】 (PDF形式、526.60KB)

お問い合わせ

伊賀市役所産業振興部農林振興課

電話：0595-22-9712

ファックス：0595-22-9715

電話番号のかけ間違いにご注意ください！

お問い合わせフォーム

この記事と同じ分類の記事

令和5年度市政運営会議

令和4年度市政運営会議

伊賀市産業振興条例が公布・施行されました

令和3年度市政運営会議

令和2年度市政運営会議

伊賀市と甲賀市は生活行動圏を共有しています

平成31年度市政運営会議

平成30年度市政運営会議

平成29年度市政運営会議

- 778 -

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事業費	2,558,280 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,558,280円	0	0

1. 事業の目的					
森林所有者等による未利用間伐材の搬出を推進することにより、木質バイオマス資源の有効活用を図ると共に、森林所有者等の意識啓発や暮らしに身近な森林における林地残材の減少を図り森林整備の促進につなげる。					
2. 事業実績概要					
【事業内容】					
発電用チップに用いる間伐材等由来の木質バイオマス証明材を、市内の木質バイオマス発電証明ガイドライン認定事業者に買い取ってもらうために必要な搬出及び運搬に要する経費の一部を助成する。					
【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】					
補助事業；森林所有者等					
【実施個所及び箇所数】					
補助申請毎の伐採届による間伐箇所と連動する。					
【事業量】					
補助事業：未利用間伐材搬出 852.76 t （前年：934.56t） 搬出件数 延べ16件 2,558,280円					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【事業実施により期待される効果】					
土砂災害等の被害拡大につながる林地残材を減らすことにより、くらしの安心・安全を守る災害に強い森林づくりに寄与したほか、森林所有者等に森林整備の必要性を身近に感じてもらうことにより、森林への意識が高まった。					
【効果を発揮させるための工夫・取組】					
令和 3 年度に、当事業を利用している森林所有者の要望を受け、林地残材の搬出に係る実態調査を行い検討した結果、補助単価を2,500円/tから3,000円/tに増額した。					
【新たな対策・視点及び改善点】					
事業を活用しやすいように、申請書及び添付資料を簡略化を検討する。					

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事 業 費	2,558,280 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,558,280円	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	登録者	定額補助	3,000円/t	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

該当無し

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	森林所有者等
期待する波及効果	森林の整備が進むことにより、森林の持つ公益的機能の向上の恩恵を受けることができる

【公的関与の必要性】

市内の森林整備を進めていくため、公的支援（経費補助）による間伐材搬出作業の推進が必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林が適正に管理されるよう指導している。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・中・後	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。
チラシ配布	実施前	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

森林所有者がバイオマス材として搬出することに欠かせない補助金であるとの声をいただいている。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金交付（未利用間伐材バイオマス搬出量）		t	852.76	3,000	2,558,280	
		合計			2,558,280	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

7の(1).写真



写真1

間伐材搬出の様子



写真2

間伐された森林の様子



写真3

間伐材搬出の様子



写真4

間伐材搬出の様子

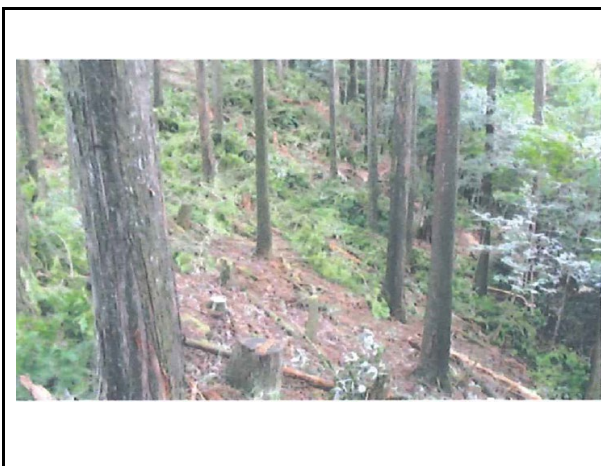


写真5

間伐された森林の様子



写真6

間伐材搬出の様子

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

7 の（2）. その他資料

未利用間伐材バイオマス利用推進事業の募集について

[公開日：2017年6月9日] [更新日：2023年6月29日] ID:4578

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

[Facebook](#) [Twitter](#) [LINEで見る](#)

未利用間伐材を搬出して森林整備を進めましょう

森林管理を進めるため間伐により伐採された木材のうち、未利用のまま森林内に留置されている間伐材（以下「未利用間伐材」という。）の収集運搬に対し補助金を交付します。

この事業は、**みえ森と緑の県民税を財源とした事業**です。



未利用間伐材バイオマス利用推進事業の募集について

未利用間伐材を搬出することにより、森林の適正な管理及び未利用間伐材の有効な利活用を促進するため、未利用間伐材の収集運搬に対し補助金を交付します。

1. 補助対象者

発電利用に供する木質バイオマスの証明にかかる自主行動規範に基づき搬出する森林所有者等

2. 対象森林

伊賀市内の地域森林計画対象民有林

3. 対象となる間伐材

市内の木質バイオマス発電証明ガイドライン認定事業所及び木材流通拠点に搬出された間伐材由来の木質バイオマス証明材

4. 対象となる期間

未利用間伐材の搬出期間と申請期限		
募集期別	搬出期間	申請期限
令和5年度第1期	令和5年4月1日から 令和5年6月末日まで	令和5年7月14日
令和5年度第2期	令和5年4月1日から 令和5年9月末日まで	令和5年10月13日
令和5年度第3期	令和5年7月1日から 令和5年12月末日まで	令和6年1月12日
令和5年度第4期	令和5年10月1日から 令和6年2月末日まで	令和6年3月8日

※ **令和6年3月の搬出分は補助金対象外となりますのでご注意ください。**

5. 補助金額

市内の認定事業者へ搬出した未利用間伐材 **1トン当たり3,000円**

6. 申請方法 様式集

1. 登録

木質バイオマス証明材取扱者の登録（出荷者登録）・（登録申請、自主行動規範作成、分別管理）※3年間有効

2. 間伐・搬出

市に（伐採及び伐採後の造林届）を提出、間伐作業を実施、搬出状況の写真を撮影、発電用チップに係る間伐材等由来の木質バイオマス証明を添えて未利用間伐材買取事業者へ搬出し、計量を受ける。

3. 交付申請

（未利用間伐材バイオマス利用推進事業補助金交付申請書・実績報告書）を市に提出

記入方法で不明点等がありましたら、農林振興課 0595-22-9712 まで、ご連絡をお願いします。

未利用間伐材バイオマス利用推進事業補助金様式関連

[W 様式集 \(ワード形式、109.07KB\)](#)

[申請の手引き \(PDF形式、450.37KB\)](#) [\(PDF形式、450.82KB\)](#)

お問い合わせ

伊賀市役所産業振興部農林振興課

電話：0595-22-9712

ファックス：0595-22-9715

電話番号のかけ間違いにご注意ください！

[お問い合わせフォーム](#)

この記事と同じ分類の記事

- [「緑の募金」にご協力をお願いします。](#)
- [森林環境譲与税の使途公表について](#)
- [水源地域の森林整備](#)
- [公共建築物等における木材利用方針を定めました。](#)
- [林業退職金共済制度について](#)
- [伊賀市未来の山づくり協議会の会員を募集します](#)
- [伊賀市森林整備計画](#)
- [地域主体の「みえ森と緑の県民税」関連事業](#)
- [DIYに使う伊賀の木を購入できる 製材所一覧パンフレットを制作しました](#)
- [森林計画図の閲覧](#)
- [林地開発許可制度が変わります！！](#)
- [林野庁「森林の役割などを学べる小学生向けコンテンツ「うんこドリル 森とくらし」](#)
- [木製の授乳室をぜひご利用ください](#)
- [【林業】伊賀産材ブランド化事業補助金について](#)
- [林業労働災害に係る注意喚起について](#)
- [未利用間伐材バイオマス利用推進事業の募集について](#)
- [森林の伐採等の届出について](#)
- [森林の土地を取得したとき](#)

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名						
3	木づかい木育推進事業						
事 業 費	2,705,786 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他		
			2,705,786円	0	0		

1. 事業の目的

親子での「木育」推進。

古くから「森」や「木」が身近にあった伊賀市では、健やかな子どもの成長と森林の持続的整備に必要な適切な木材利用の推進を図り、森を支える社会づくりにより地域そのものの価値を高め、地域の森林に高い関心を持った人づくりを進める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

- ・ 幼児期からの「木育」を進めるため、親子共に木のぬくもりを共有できる物として、出生のお祝いに伊賀のヒノキの薫る木製フォトフレームを配布する。
- ・ 小学 5 年生が社会科の授業で森林の間伐を学ぶ機会にあわせて伊賀産ヒノキの手作り箸キットを配布する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

伊賀市

【実施個所及び箇所数】

市内全域

【事業量】

フォトフレーム 出生時 540個
伊賀産材の手作り箸キット 800個
レターパック 60通

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

木に触れることで、木の薫りとぬくもりを感じることができるとともに、リーフレットを配布することにより親子で木に関心を持つ機会を作る。また、社会科の授業と併せて森に関する人づくりを行うことが出来る。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

配布時に、伊賀産材を使用していることなど直接伝えることで、木や森林に関心を持つ機会を創出した。

【新たな対策・視点及び改善点】

1歳半検診時に木製（伊賀産材）のスプーンを、3歳児検診時に木製（三重県産材）の子ども用のお箸を保健師の手から、木育リーフレットの配布にあわせて配布していたが、子どもがスプーンを噛んで飲み込む事象が発生したため、令和 4 年度から配布対象年齢を上げ、伊賀産ヒノキの手作り箸キットを配布することとした。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	木づかい木育推進事業				
事 業 費	2,705,786 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,705,786円	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	個人	補助事業ではない		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】 指名競争入札により発注、購入した。 【主な経費内訳】 (別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	新生児540人、小学5年生800人			
期待する波及効果	受益者及び家族が木材に愛着を感じるようになり、木製品を好むようになる、森林環境に関心を持つ。			
【公的関与の必要性】 多くの市民に配布物による木のぬくもりを感じてもらうため。 【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
チラシ等配布	実施中	フォトフレーム、手作り箸キットに事業の目的等を記載したチラシを添付のうえ配布した。		
アンケート実施	実施中	親に対する県民税を活用した旨のPRをこめたアンケートを実施した。		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
事業名	木づかい木育推進事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
フォトフレーム	出生時	個	540.00	2,365	1,277,100	
伊賀産材の手作り箸キット	小学５年生	本	800.00	1,749	1,399,200	
郵送用レターパック		通	60.00	370	22,200	
封筒		箱	3.00		7,286	
		合計			2,705,786	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	木づかい木育推進事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

フォトフレーム(表)



写真2

フォトフレーム(裏)



写真3

伊賀産材の手作り箸キット



写真4

小学5年生 箸製作の様子



写真5

小学5年生 箸製作の様子

写真6

写真6

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	木づかい木育推進事業
-----	------------

7の(2). その他資料

「森からのプレゼント」

伊賀の森林は古くから人との関わりの中で、生活に豊かな恵みをもたらしてきました。

森の人とのたゆまぬ営みを子どもに伝えるきっかけとして、また木のぬくもりを感じ、豊かな暮らしを送っていただけるよう、「みえ森と緑の県民税」を財源にして、伊賀のヒノキで作ったフォトフレームをお送りします。

伊賀市長

かおり。
てざわり。
ぬくもり。

伝えつづけたい、日本の木のやさしさ。

使って、使って、使えて、育てる、未来への木づかい。

みえ森と緑の県民税

みえ森と緑の県民税

木づかい.com 林野庁 <http://www.shinetsu-nori.jp>

い か さん 伊賀産ヒノキの て づ く は し 手作り箸キット説明書

◎手作り箸キット内容物

☒ お箸用カット済木材 ☒ 紙やすり150番 ☒ 紙やすり400番

◎手作り箸キット以外に準備するもの

☒ 小刀 ☒ 手袋 ☒ オリーブオイル(お箸の保護につかいます) ☒ 乾いた布



お箸を作る時は、説明書をよく読んで、先生の指導の下で作業してください。

し ぜ ん まち 自然を守るために、わたしたちにできること

森林には、自然の方によって発生し、育ってできた天然林と、木材を育てるために人が杉やヒノキなどの樹木を植

えてできた人工林があります。人工林は、天然林と違って、人がよき手入れをしないと、間伐をしないと

森林の働きが弱ってしまいます。森林は、木材を生産し、人に安らぎをもたらす場として使われています。また、土

をどけたり、水を蓄えたりすることで自然災害を防ぎ、みんなが安全に暮らすために大きな役割を果たしています。

木材を伐ると、「木を植える一貫して切り出す一また木を植える」といわれるので、人工林を守るこ

とに心がけます。

この手作り箸キットの箸は、伊賀市内の森林の間伐材で作りしました。

伊賀の木でお箸をつくることで、木を身近に感じてもらい、森林への関心を持ってください。

ヒノキ(檜)ってどんな木?



かん ばつ の 様子



ヒノキの材は木目の美しさ、香りの良さ、耐久性や耐水性の高さから優良な建築材とされています。

は し つ く か た お箸の作り方

1. 小刀でけずる



お箸用カット済木材を小刀で削ります。木目をよく見て、木目に逆らわないに削りましょう。手袋を着用し、ケガをしないように注意してください。万物の前に手を置くような使い方は大変危険ですので、絶対にしないでください。人の近くでは作業しないでください。刃は絶対に人に向けないでください。※万物の削り屑は捨て、紙やすりをかけることでつくることも出来ます。

2. 紙やすりでみがく



紙やすりでみがくと、木の表面をなめらかに仕上げることが出来ます。紙やすりには、いろいろな目のあかさのものがああります。数字が大きいほど細かい目がついています。初めはあら目のもの(150番)を使い、細かい目(400番)にかけて表面をなめらかにします。紙やすりは、いろいろなみがき方があり、削って使用するとみがきやすいです。

3. 油をぬる



お箸を使っていると、ささくれが入ることがあるので、ささくれを防ぐために、こまめに油分を与えてあげることが大切です。

オリーブオイル(※)を木目にそって乾いた布でうすくぬりこんでください。ぬりこんだら、乾いた布で油分をしっかりとふき取ってください。ふき取れたら、油分が乾燥してから使用してください。

※エゴマ油やアマニ油を代わりに使うことも出来ます。



伊賀産ヒノキの手作り箸キットは「みえ森と緑の県民税」を財源に、伊賀の間伐材で作っています。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
4	伊賀の森っこ育成推進事業				
事業費	3,456,446 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,456,446円	0	0

1. 事業の目的
森林環境への関心や要望が高まるなか、次代を担う子ども達の森林・林業への理解と関心を学校教育の場においても学習できるようにする。
2. 事業実績概要
【事業内容】 市内の小中学生を対象に森林環境教育に関する活動を実施する実行委員会等が実施する、森林のはたらきや森林・林業の歴史についての学習活動、木工利用、木工体験（竹材等も含む）、間伐体験、里山整備活動、植物・樹木観察、野生生物・昆虫観察など、森林・自然や木と関連した森林環境教育にふさわしい内容の活動に対して、活動費用を補助する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 市内の小中学生を対象に森林環境教育に関する活動を実施する実行委員会等 【実施個所及び箇所数】 19箇所（学校） 【事業量】 事業量：市内小中学校 19校56学級で実施 事業費：3,456,446円（補助金額）
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
【事業実施により期待される効果】 市内に在学している小中学生が「森のせんせい」などの講師から、森のはたらきや林業について学習することができ、森林環境や木材等に関して知識理解を深めることが出来た。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 事業開始から申請数が増え、継続して要望もあることから、今後も継続して事業を実施していく。 【新たな対策・視点及び改善点】 小学校と中学校で、年齢・学年に応じた体験を行うことで、子どもたちにより知識・理解を深めることが出来た。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
4	伊賀の森っこ育成推進事業				
事 業 費	3,456,446 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,456,446円	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	10/10以内	最上級学年の学級数×10万円	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
森林環境教育等に対して意欲的な団体を選定する必要があるため、補助金制度として運用している。				
【主な経費内訳】 (別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	参加生徒自動総数1,045人			
期待する波及効果	生徒に森林環境教育や木工体験を実施し、身近な森林への興味関心を育んだ。			
【公的関与の必要性】				
市内の小中学校生徒を対象としており、より多くの生徒に森林環境教育を実施するため必要である。				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】				
施設等整備ではなく転用や目的外使用は想定されない。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
チラシ等配布	実施前	学校担当者に対し、校長会の際に本事業の内容について説明した。		
学校だより等掲載	実施後	事業を実施した小中学校の学校だよりやホームページで保護者や生徒に対し、「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を図った。		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				
各学校からは、児童生徒の森林に対する興味・関心・意欲が深まり、実生活に活かすことが出来ているとの声を多数頂いている。学校担当者からは、森林教育を行う上で、必要不可欠な取り組みとの声もある。				

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
事業名	伊賀の森っこ育成推進事業		

4. 効率性：主な経費内訳

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
伊賀の森っこ育成推進事業補助金交付	学級	56.00		3,456,446	19団体
事業費				3,456,446	

作業内容	名 称	学級数	参加人数	単価	金額	備考
学校教育における森林環境教育・木工体験・林業体験	崇広中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	4	126		327,600	
	府中小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	30		100,000	
	青山中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	63		200,000	
	阿山中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	52		197,313	
	城東中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	3	85		255,000	
	緑ヶ丘中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	5	172		481,600	
	島ヶ原小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	8	68		100,000	
	成和東小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	16		100,000	
	阿山小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	42		140,000	
	上野北小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	64		100,000	
	友生小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	60		155,567	
	青山小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	56		199,366	
	上野南小学校伊賀の森っこ育成推進事業実行委員会	3	51		100,000	
	上野東小学校伊賀の森っこ育成推進実行委員会	3	86		300,000	
	西柘植小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	3	49		100,000	
	三訪小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	25		100,000	
	上野西小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	9	147		300,000	
	大山田小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	34		100,000	
	壬生野小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	32		100,000	
	計	56	1,045		3,456,446	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	伊賀の森っこ育成推進事業
-----	--------------

7の(1). 写真



写真1

森林環境学習



写真2

木工体験



写真3

しいたけの菌打ち体験

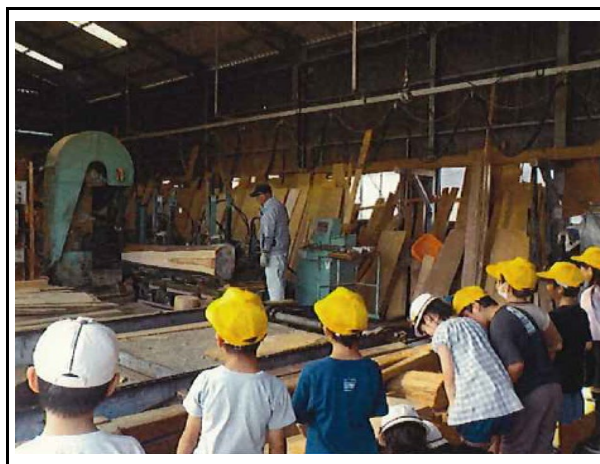


写真4

製材所見学



写真5

森林体験



写真6

植樹体験

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	伊賀の森っこ育成推進事業
-----	--------------

7の(2). その他資料

友生小学校 1年生 活動計画

～自然の素材を使って、フォトフレームを作ろう～

目的

- ・生活科「秋を見つけよう」で秋を感じるため、秋の自然に触れ、見つけた秋を伝え合い、自然を大切にしようとする。
- ・自然と人間がともに生きていくことの大切さを感じ、そのために自分たちにできることを考える。
- ・丸太や枝、木の実など自然の素材を使って、仲間と一緒にフォトフレームづくりを楽しむ。

日時 2023年10月16日および10月17日

場所 伊賀市立友生小学校 図工室

参加者 10月16日: 1年1組27名、1年2組28名

10月17日: 1年1組27名、1年2組28名

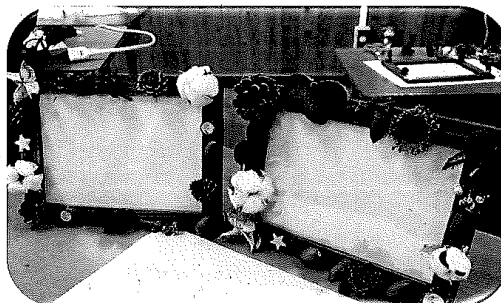
合計55名

内容

- ・上野南公園で自然の素材集め
- ・自然の素材を使ったクラフト体験

準備物

- ・グルーガン、グルースティック
- ・自然の素材(木やどんぐりなど)
- ・新聞紙
- ・マジックペン



第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
5	地域の森と緑のつながり支援事業				
事 業 費	59,234 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			59,234	0	0

1. 事業の目的					
地域住民が森林・林業にふれあう機会が少なくなっているため、地域における森林環境・林業に関する教育活動を支援することで、地域住民や子どもたちが共に森林・林業等への関心を持ち、身近な生活における森と緑のつながりを感じられることを目的とする。					
2. 事業実績概要					
【事業内容】 住民自治協議会等が実施主体として、森・緑・木材と地域とのつながりを目的に行う一般募集の森林・林業・環境学習・木工などのイベントや研修活動に対して、必要な費用を補助する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 住民自治協議会等 【実施個所及び箇所数】 住民自治協議会等 【事業量】 2箇所					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【事業実施により期待される効果】 森林を支える地域において、補助事業によるイベント等を通して、県民税のばり等をPRに活用して、森を育む人づくり・森を支える社会組織づくりに貢献した。直接的に、森づくりやみえ森と緑の県民税の趣旨について、市民に伝えることができた。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 施設整備等ではなく、該当しない。 【新たな対策・視点及び改善点】 地域における森林の大切さを知らせることが出来た。森林・林業等全般への理解・関心を高めた。					

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
5	地域の森と緑のつながり支援事業				
事 業 費	59,234 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			59,234	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	地域協議会等	10/10以内	上限 5 万円/団体	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

補助事業による選定のため、該当なし

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	受益者：市内住民 活動団体数：2団体 活動参加人数：61人
期待する波及効果	地域住民が森林・林業等への関心を持ち、身近な生活における森と緑のつながりを感じられる

【公的関与の必要性】

地域における森林環境・林業に関する教育活動を支援するもので、特定の個人への利益となるものでなく、公的な支援が妥当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設等整備ではなく転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・中・後	事業内容及び「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を行った。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
事業名	地域の森と緑のつながり支援事業		

4. 効率性：主な経費内訳

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
地域の森と緑のつながり支援事業補助金	団体	2	上限50,000円	59,234	
事業費				59,234	

作業内容	名称	人数	活動内容	補助金額	備考
地域の森と緑の つながり支援事 業一覧	玉滝地域住民自治協議会	37	椎茸栽培・菌うち体験等	29,693	
	阿波地域住民自治協議会	24	講演会の開催	29,541	
	計	61		59,234	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	地域の森と緑のつながり支援事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

きのこの生態や森林の役割についての講話
（玉瀧地域住民自治協議会）



写真2

菌打ち用楢木作業（玉瀧地域住民自治協議会）



写真3

しいたけ菌打ち体験（玉瀧地域住民自治協議会）



写真4

林業研修（阿波地域住民自治協議会）



写真5

林業研修（阿波地域住民自治協議会）



写真6

林業研修（阿波地域住民自治協議会）

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	地域の森と緑のつながり支援事業
-----	-----------------

7 の（2）. その他資料

この「みえ森と緑の県民税」 × +

city.iga.lg.jp/0000006648.html

le Chrome のアップデートを受信するには、Windows 10 以降が必要となります。このパソコンでは Windows 8.1 が実行されています。

令和5年度 地域の森と緑のつながり支援事業補助金

- 実施主体
住民自治協議会
- 実施期間
交付決定日から令和6年2月末日
- 事業内容
住民自治協議会が主催する森林環境に関するイベントおよび学習活動
- 事業目的
子どもたちが地域住民とともに、森林・林業への理解とそのつながりを深める。

※詳しくは、下記の「地域の森と緑のつながり支援事業補助金の概要」をご確認ください。事業の実施には、各要件がありますので、事前に農林振興課計画係までお問い合わせください。

添付ファイル

 [令和5年度地域の森と緑のつながり支援事業概要 \(PDF形式、184.94KB\)](#)

 [様式集 \(ワード形式、25.14KB\)](#)

 [様式集【記入例】 \(PDF形式、336.11KB\)](#)

 [平成25年度会議要録・会議資料](#)

 [平成28年度会議要録・会議資料](#)

 [平成26年度会議要録・会議資料](#)

 [伊賀市庁議\(総合政策会議、市政運営会議\)について](#)

 [平成27年度会議要録・会議資料](#)

 [上野市駅前地区市街地再開発事業](#)

 [再開発Q&A](#)

 [地域主体の「みえ森と緑の県民税」関連事業](#)

 [伊賀市森林整備計画](#)

 [伊賀市農業再生協議会について](#)

 [認定農業者になるために](#)

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
6	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）				
事 業 費	200,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			200,000円	0	0

1. 事業の目的

市内の間伐材の利用と地域の木材を活用できる人材の育成を目的とする。
市民から必要とされている木製品を開発する中で、若い人材や地域団体などが、伊賀の木の活用ノウハウを身に着ける。

2. 事業実績概要

【事業内容】

伊賀市旧上野庁舎を改修し、図書館・観光交流施設等を計画。その中の児童図書館空間の一部（テラス部分）において木製備品のデザイン・設計・制作を今回改修に係わる建築家、家具デザイナーの協力のもとに事業を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

伊賀白鳳木育推進実行委員会

【実施個所及び箇所数】

伊賀市旧上野庁舎改修後の児童図書館空間の一部（テラス部分）において木製備品の設置を計画している。

【事業量】

木製備品デザイン案の制作に係わる原材料費、需用費、備品購入費等 200,000円

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

木工や建築を志す高校生が新児童図書館空間に設置する木製備品を開発・制作することで、児童が木に対し愛着を持つことが期待できる。また、高校生の木製備品の製作を通して木や森林に関心を持つ良い機会となる。地域材の活用技術が継承され、市民に直接木材の良さと木材利用の必要性を伝えることが期待出来る。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

これまで続けてきた実績・から要望も高く、また高校生の木製品の製作を通して木や森林に関心を持つ良い機会となるため、今後も継続して実施する。

【新たな対策・視点及び改善点】

今後も地元団体や高校等と連携しながら、伊賀産材の活用及び人材育成に努める。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
6	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）				
事 業 費	200,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			200,000円	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	10/10以内	上限70万円/ 1 か所あたり	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

補助事業による選定のため、該当なし

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	児童図書館空間を利用する児童及びその保護者
期待する波及効果	児童図書館を利用する児童が木に愛着を持つことが出来る

【公的関与の必要性】

制作主体が伊賀白鳳高校の生徒であり、その生徒達の木育・木活用人材育成となるような取り組みを目指しているものであるため、公的関与が必要であると考えられる

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

今回は市所有の児童図書館空間の一部に設置する目的の元で開発・制作されるものであるため、転用の懸念は無いと考えられる。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・中・後	事業内容及び「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を行った。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

木製品デザイン案の制作を通じて、高校生は木工技術の習得及び旧上野市庁舎整備の受注業者である(株)伊賀市にぎわいパートナーズ設計担当者へのプレゼンテーションを経験することになり、人材育成の貴重な機会となっている。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
事業名	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金					200,000	
自己資金					178	
事業費					200,178	

作 業 内 容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
伊賀白鳳木育推進実行委員会 （白鳳高等学校生徒）による製品開発	使用料				0	
	原材料費				80,959	木材
	需用費				50,000	模型製作道具等
	備品購入費				41,860	専門書籍購入
	その他				27,359	研修旅費等
	計				200,178	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）
-----	--------------------------

7の(1). 写真



写真1

椅子のミニチュアモデル制作【古（いにしえ）の匂い】

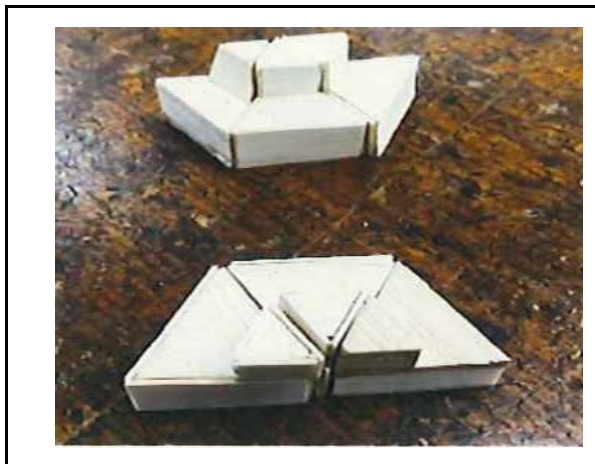


写真2

【変化させる椅子】



写真3

テラス部分の模型作成・椅子の配置提案



写真4

旧伊賀庁舎内見学（テラス部分の現場確認）



写真5

岐阜研修（羽鳥市庁舎：旧庁舎同設計者）

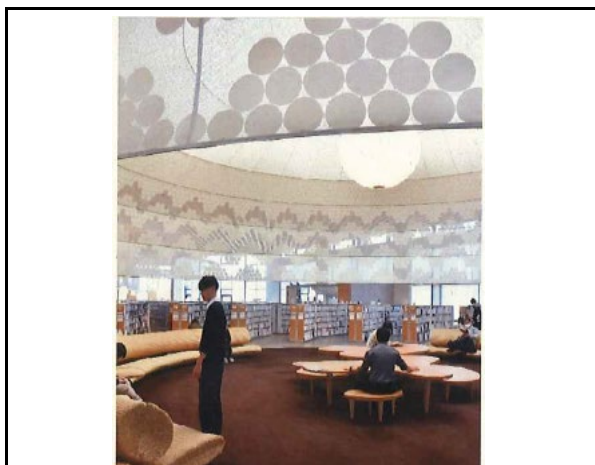


写真6

岐阜メディアコスモス
図書館インテリアデザイナー設計）

（新

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）
-----	--------------------------

7の(2). その他資料

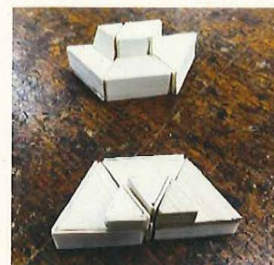
令和5年度 森と緑の県民税 活動実績報告

伊賀市旧上野庁舎改修 坂倉準三氏の設計による伊賀市旧上野庁舎を改修し、図書館・観光交流施設等とする計画です。設計は MARU. Architecture（以下 マルアーキテクチャ）。その児童図書館部（テラス部分）において子供用家具を、マルアーキテクチャと共にデザイン・開発・制作に携わることになりました。

令和6年1月ミニチュアモデル制作開始

可変性のある使用を目的とした「変化させる椅子」、松尾芭蕉の笠や伊賀の山並みをイメージし、子供たちが遊べるような椅子「古（いにしえ）の匂い」、車椅子の方と同じ目線で座れる椅子など3つのアイデアにまとまりました。

「古の匂い」は三重県産のヒノキを用いました。仕上がりが良いので、実際の家具においても三重県産ヒノキを使う予定です。



「変化させる椅子」



三重県産ヒノキで制作した 「古（いにしえ）の匂い」



車椅子の方と同じ目線で座れる椅子

1月29日（月）マルアーキテクチャとの初めての打ち合わせ（オンライン）

顔合わせということもあり、自己紹介、過去の作品を紹介しました。ミニチュアモデル椅子のプレゼンテーションを行いました。課題として、アイデアのブラッシュアップを図るように伝えられました。

3月8日（金）マルアーキテクチャとの打ち合わせ（伊賀市旧上野庁舎）

1 事中の現場にて打合せを行いました。1/10 のテラス部分の模型を持参し、同じく 1/10 で制作したミニチュアモデル椅子を並べて新たな椅子を提案しました。マルアーキテクチャの高野さん森田さんからは、「子供が外に出て本を読むきっかけになれば」とテラス部分の使用についても言及がありました。また、坂倉準三や藤江和子さん（今回のインテリアデザイナー）への理解を進めるよう言われました。



1/10 テラス模型に椅子を配置し提案



伊賀市旧上野庁舎内を見学

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
7	幼児教育・保育施設木製遊具整備事業				
事 業 費	11,266,420 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			0	11,266,420円	0

1. 事業の目的

子どもの頃から、木とふれあい、木製遊具で遊ぶことで、五感を刺激し感性を磨き、好奇心・集中力を高める。木を身近に使うことを通じて、人と、木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育む。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市内の保育所・幼稚園・認定こども園において、地域産材を使用した木製遊具を整備する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

市内の保育所・幼稚園・認定こども園の園児

【実施箇所及び箇所数】

市内の保育所27園・幼稚園2園・認定こども園1園

【事業量】

ゆらゆらぼっくり（保27、幼2、認1）、丸太ステップ（保4）、木製平均台（保11、幼1）、ウッドマウンテン（保11、認1）

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

五感が刺激され、感性を磨き、好奇心・集中力を高めることが出来る。
木を身近に使うことを通じて、人と、木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心が育まれる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

木製遊具の設置については、安全対策及び防腐対策を取り実施した。

【新たな対策・視点及び改善点】

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
7	幼児教育・保育施設木製遊具整備事業				
事 業 費	11,266,420 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			0	11,266,420円	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	木工製造業者	補助事業ではない		木製品加工事業者

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

一般及び指名競争入札により発注、購入した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市内の保育所・幼稚園・認定こども園の園児
期待する波及効果	五感が刺激され、感性を磨き、好奇心・集中力を高めることが出来る

【公的関与の必要性】

市内の保育所・幼稚園・認定こども園の園児における、木とのふれあいや関わりを持つ活動を支援するもので、特定の個人への利益となるものでなく、公的な支援が妥当である。

市内の保育所等に設置・管理する目的の元で開発・制作されるものであるため、転用の懸念は無いと考えられる。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・中・後	事業内容及び「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を行った。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

保…保育園、幼…幼稚園、認…認定こども園

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	伊賀市
事業名	幼児教育・保育施設木製遊具整備事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金					11,266,420	
事業費					11,266,420	

作 業 内 容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
ゆらゆらぼっくり	2ヶ1セット 本体90mm×150mm×50mm	セット	450.00	2,970	1,336,500	保27・幼2・認1
丸太ステップ	5本入り	セット	4.00	121,000	484,000	保4
木製平均台	平均台2台＋横木1本	セット	12.00	83,160	997,920	保11、幼1
ウッドマウンテン	W1,500mm H1,500mm L2,500mm	台	12.00	704,000	8,448,000	保11、認1
	計				11,266,420	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	幼児教育・保育施設木製遊具整備事業
-----	-------------------

7の(1). 写真

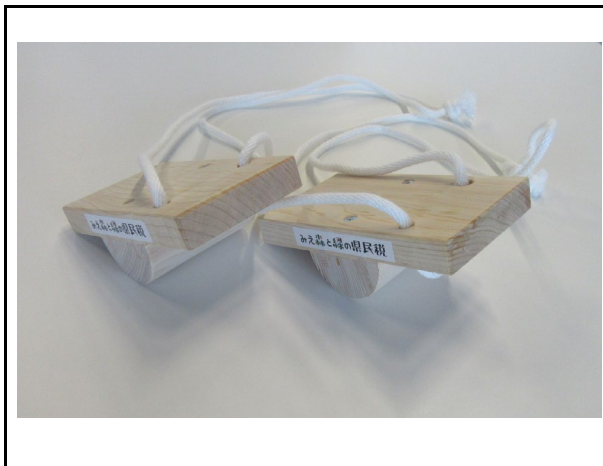


写真1

ゆらゆらぽっくり



写真2

丸太ステップ



写真3

木製平均台



写真4

ウッドマウンテン



写真5

ウッドマウンテン



写真6

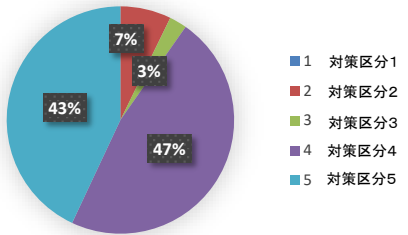
資料 2－2

尾 鷲 市

令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報「三重県市町要覧（令和5年度版）」「令和4年度版森林・林業統計書」による 対策区分別事業費割合

市町名	尾鷲市	三重県
人口（人）	15,139	1,731,863
年少人口割合（％）＊1	8.1%	11.6%
森林面積(ha)	17,694.96	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	14,925.81	348,561.87
森林率(%)	92.0%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	6.5	10.6



＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合
＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）
＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

2. 令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	2	人家裏危険木伐採事業	1,044,000	1,044,000		1,044,000				
2	3	尾鷲ヒノキを活用した保育園児等への山育事業	360,660	360,660			360,660			
3	4	木とふれあう学校環境づくり事業	138,600	138,600				138,600		
4	4	木とふれあう学校環境づくり事業（尾鷲中学校学習机・椅子整備）	4,246,000	4,246,000				4,246,000		
5	4	木とふれあう学校環境づくり事業（矢浜小学校学習机・椅子整備）	2,442,000	2,442,000				2,442,000		
6	5	中村山公園整備事業	3,421,000	3,409,242					3,409,242	
7	5	矢浜公園ほか立木伐採・処分及び森林教育事業	2,805,000	2,805,000					2,805,000	
計			14,457,260	14,445,502	0	1,044,000	360,660	6,826,600	6,214,242	0

3. 令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量（ha・m）	事業費（円）	内交付金充当額（円）	事業概要

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	近年では、災害による被害が拡大傾向にあることから、災害に強い森林づくりは大変重要なものであると考えている。また、危険木等を伐採したままにするのではなく、園児や児童、生徒への木育の機会を設けるツールとして利用する方法を考え、災害と森林教育の観点から事業の選定を実施している。
事業実施により期待される効果	人家裏の危険木伐採は、災害に強い町づくりの推進に一定の効果が得られたと考えており、この点については、事業実施後の住民の反応や声をみても、いずれも好意的なものであったため、安心安全の確保に効果があったと感じている。また、市内小・中学校へ地元産材で作った机、椅子を導入することにより、地元産材がどのような工程を経て机、椅子になったかを学習する良い機会になったと感じている。
情報発信への取組	市内の小中学校へ机導入の際に、生徒や親にみえ森と緑の県民税の説明を行うことや、市のホームページや広報誌に実績と計画を載せる等を行うことで市民への県民税の周知を行っている。

第 1 1 号様式（その 1）（参考資料）

令和5年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	② 意向調査	12,266	12,266
2	⑥ 林道・林専道の整備等	42,691	27,336
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	54,957	39,602

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	人家裏危険木伐採事業				
事 業 費	1,044,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,044,000		

1. 事業の目的	
人家に密接する放置林において、自治会等が自主的に行う人家裏にある山林の危険木伐採費用の一部を補助し、災害を未然に防止することを目的とする。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 自治会等が事業主体となり、人家に隣接する山林内の危険木で緊急に伐採する必要がある場合に限り、その費用の一部を補助する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 自治会・自主防災会等 【実施個所及び箇所数】 2地区（須賀利地区・三木浦地区） 【事業量】 三木浦地区：1本、須賀利地区：2本 各自治体配布用のチラシデータ作成	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【事業実施により期待される効果】 当地域は、背後に急傾斜を有する人家が多いため、危険木を伐採することにより、森林の適正な整備が促進され、災害を未然に防止できる。また、地域住民がお互いに災害の危険性を認識していただくことで、森林整備の必要性を改めて認識される。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 昨年度以前と同様に、要望が寄せられた自治会等の方々と森林伐採の専門家も同伴での現地確認を行うことで、より防災効果の見込める効果的な伐採箇所の選定を実施している。 【新たな対策・視点及び改善点】 人家裏危険木伐採事業のチラシを作成し、各自治体に配布することで、倒木による更なる災害の防止を見込む。	

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名					
1	人家裏危険木伐採事業					
事 業 費	1,044,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			1,044,000			

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	自治会等	9/10以内	500,000円	補助率は伐採費用の80%
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
地域で危険だと認識し、地域全体で防災意識を持ってもらうのが主旨であるため				
【主な経費内訳】				
(別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	危険木伐採により生活環境が向上する地区は2地区			
期待する波及効果	森林の重要性に対する住民意識や防災意識の向上			
【公的関与の必要性】				
市が補助を出すことで住民自ら危険木の伐採を進めることにより、災害時の倒木等を未然に防止する観点があるため				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】				
森林所有者との調整は申請者（自治体等）が行っている。				
森林所有者が適正に管理。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
HP掲載	実施前・後	実施前：令和5年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和6年度当初に事業実績の報告		
広報誌掲載	実施前	令和6年6月号に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載		
標識・標柱等設置	実施後	実施場所付近に標柱を設置して県民税活用を周知する。		
その他				
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				
各自治会長から伐採後に、感謝と来年度も危険木が見つかり次第報告するとの電話があるため、好評であると思われる。				

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市
事業名	人家裏危険木伐採事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金(三木浦地区)	危険木伐採（1本）	式	1.00	456,000	456,000	人家裏、斜面等
補助金(須賀利地区)	危険木伐採（2本）	式	1.00	500,000	500,000	人家裏、斜面等
需用費	木製標柱	本	2.00	22,000	44,000	
チラシ作成料	チラシデータ	個	1.00	44,000	44,000	
				合計	1,044,000	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

実施前（須賀利地区）



写真2

実施後（三木浦地区）



写真3

実施前（三木浦地区）



写真4

実施後（三木浦地区）



写真5

看板設置（須賀利地区）



写真6

看板設置（三木浦地区）

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
2	尾鷲ヒノキ等を活用した保育園児等への山育事業				
事 業 費	360,660 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			360,660		

1. 事業の目的

園児一人ひとりが、尾鷲ヒノキ等、尾鷲に植生する樹木を苗木から育てていく取り組みを実施し、子どもたちが森に親しみをもち、樹木の成長に合わせた継続的な森との関係性を保つ機会を創出する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市内全ての保育園・認定こども園の5歳児を対象に、尾鷲ヒノキ等の苗木を一人1本ずつ園で育てる。
尾鷲市の木である「尾鷲ヒノキ」や森について学ぶ山育事業を実施し、卒園時には園で育てた苗木を市有林で整備をしている「みんなの森」に植樹する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市

【実施個所及び箇所数】

市内の5歳児のいる保育園・こども園 6 園で実施。

【事業量】

出前講座：計4回

植樹体験：計4回

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

尾鷲市の大切な資源である「尾鷲ヒノキ」等の樹木を子どもたちが半年かけて育て、育てた苗木を植樹することにより、生涯にわたって尾鷲ヒノキ等や森に愛着を感じることができる。また、森に行く機会ができることで成長とともに環境や植物多様性など森のもつ多面的な機能を学ぶきっかけにつながる。

併せて、ヒノキ等に安着を持つことで将来的な木材利用の推進につなげることができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

出前講座で樹木や森に対する関心を高めること、苗木を自分で育て森を歩き植樹する体験がより森や樹木への愛着や興味を深める取組を行った。

【新たな対策・視点及び改善点】

尾鷲市の小中学校で実施してきた森林教育（木育、山育）の取り組みを就学前の児童にも広げることにより、幼少期から木に触れる機会を設け、一体的な森林教育へと繋げる。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	尾鷲ヒノキ等を活用した保育園児等への山育事業				
事 業 費	360,660 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			360,660		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
直営	その他	補助事業ではない	-	尾鷲市主導で実施

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

対象者を保育園児にしたことで、幼少期から木や森に触れる機会を増やしたい。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	利用する市民
期待する波及効果	対象を保育園児にしたことで、本事業での体験が子どもの成長に寄与することに加えて、子どもたちから父母、祖父母等保護者への普及が見込める。

【公的関与の必要性】

植樹している箇所が市有林であるため、管理者である市の関与が必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市有林に植樹していることから、管理は市職員が行う。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・後	実施前：令和5年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和6年度当初に令和5年度事業実績の報告
広報誌掲載	実施前・後	令和6年6月号（予定）に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載
標識・標柱等設置	実施後	実施場所付近に標柱を設置して県民税活用を周知する。
学校だより等掲載	実施後	保護者に向けて各園ごとに通信を発行した。
その他	実施後	H P や S N S により山育（出前講座及び植樹体験）の様子を掲載・発信。 テレビや新聞の報道による発信。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

各園長先生からは、山の中という保育園だけで行うには難しい場所での体験を、市役所の方々がサポートして下さるため行うことができる等の感想をいただいている。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市
事業名	尾鷲ヒノキ等を活用した保育園児等への山育事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
ヒノキ等苗木 (ヒノキ、桜、 紅葉、樺、クヌ ギ)	50～60センチ	本	101.00	ヒノキ@150円 ヤマザクラ@600円 イロハモミジ@600円 クヌギ@450円 ケヤキ@600円	52,140	ヒノキ23本 ヤマザクラ20本 イロハモミジ22本 クヌギ19本 ケヤキ17本
標柱	90角×H1700mm加圧 注入防腐処理、文字 レーザー彫刻	基	1.00	26,125	26,125	
消耗品	獣害用柵等、植木鉢、 土、獣害用薬剤等	式	1.00	200,283	200,283	
保険料	レクリエーション(障 害) 保険	人	88.00	24	2,112	
記念品	ヒノキコースター	個	100.00	800	80,000	
				合計	360,660	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	尾鷲ヒノキ等を活用した保育園児等への山育事業
-----	------------------------

7の(1). 写真



写真1

出前講座の様子



写真2

苗木の配布



写真3

植樹体験前の森の説明



写真4

植樹体験



写真5

植樹後の森の散策



写真6

標柱

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	尾鷲ヒノキ等を活用した保育園児等への山育事業
-----	------------------------

7 の（2）. その他資料

普及啓発状況（保育園だより）



**尾鷲ヒノキ等を活用した
山育事業について**

3月4日（月）、約1年間、年長さんが育てた苗木を尾鷲市の市有林（尾鷲みんなの森）に植樹してきました。この山育を通して、尾鷲の豊かな自然に親しみ、大切にする気持ちが育ってくれと嬉しいです。

大きくなってね



大きくなったら、もう1回見に行きたいなあ


やまいくにさんかしました！

 すみれぐみ







「おっきなるかなあ」とつぶやきながら、しょくじゅしていましたが、つちをかくて、あしでふんでかため、さむくないようおちばをかけてました！

ぜっけいのばしよでしゃしんをとりました♡

みんなの森についてのはなしをききました！

みんなのしみながら、がんばりました♡

尾鷲ヒノキ等を活用した山育事業について

3月7日（木）、約1年間、年長さんが育てた苗木を尾鷲市の市有林（尾鷲みんなの森）に植樹してきました。この山育を通して、尾鷲の豊かな自然に親しみ、大切にする気持ちが育ってくれと嬉しいです。




令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	木とふれあう学校環境づくり事業				
事 業 費	138,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			138,600		

1. 事業の目的
本交付金を活用し、市産材で制作した木製の机・椅子を平成26年度に宮之上小学校へ、令和元年度に賀田小学校へ配置し、木の温もりにふれあう快適な学習環境を構築した。将来にわたって児童が自分の机・椅子として使用するとしているが、日々の使用によって損傷するため、これを修理し再使用する。
2. 事業実績概要
【事業内容】 木製機の修理又は損傷の激しいものは部品（県産材）交換を行う。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 尾鷲市 【実施個所及び箇所数】 尾鷲市立宮之上小学校、尾鷲市立賀田小学校 2校 【事業量】 市産材で制作した組立式の机の天板 宮之上小学校 15枚 賀田小学校 7枚
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
【事業実施により期待される効果】 交付金事業により、木製の机・椅子を整備することで、木の持つ温かみや香り、肌触りなどの木の良さを実感できる快適な学習環境を構築する。木製ということもあり、使用により損傷してしまうものもあるが、将来にわたって使用する計画であることから、修理し再使用することとしている。このことから、物を大切にしようとする心を養うことができ、さらに、森林の重要性・必要性について学ぶ機会を得ることができる。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 児童が使用する机・椅子は、地元の「尾鷲ヒノキ」をふんだんに使った木の温もりが感じられるものであり、それ自体が木育をするための1つの教材と捉えている。天板を変えてずっと使っていくことは、卒業生から新入生へ、物を大切にする想いを繋ぐと共に、天板に使用した成木のあとに幼木を植樹することによる森林の繋がりがりや、持続可能な社会の実現に向けた森林教育及び情操教育を行うツールとして活用していきたい。また、授業時間を確保し、市職員による地域材「尾鷲ヒノキ」についての説明を実施することで、森林の重要性や地元産材の歴史なども知ってもらいたい。 【新たな対策・視点及び改善点】 令和5年度事業で矢浜小学校に新規で机・椅子を整備した。未実施の2校（尾鷲小学校・向井小学校）への同様の机・椅子の整備について、学校の要望等も聞きながら検討していきたい。

令和5年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	木とふれあう学校環境づくり事業				
事 業 費	138,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			138,600		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない	-	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

導入事業者である森林組合おわせに補修・研磨を発注した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	宮之上小学校、賀田小学校の児童
期待する波及効果	地元産材を使用した机の天板を補修し継続して使用することと、市職員による森林教育授業を実施することで、森林整備の大切さと成長サイクル、循環型社会や持続可能な社会の実現について学ぶことができる。

【公的関与の必要性】

小学校で児童が使用する机の天板の補修・研磨作業及び関連する森林学習であるため、管理者である市の関与が必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

学校内各教室にて管理

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・後	実施前：令和5年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和6年度当初に令和5年度事業実績の報告
広報誌掲載	実施前・後	令和6年6月号（予定）に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載
HP掲載	実施後	賀田小学校の子どもたちの様子9月分に掲載 市公式SNS(インスタグラム等)に掲載 9月12日
ロゴマーク掲示 (シール・プレート等)	実施後	整備した机にロゴマーク等を貼り付け

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

天板の張替えを行った子どもたちから、「楽しかった」、「新しい机で授業を受けたい」等のコメントをもらった。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市
事業名	木とふれあう学校環境づくり事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
机天板補修		枚	21.00	6,000	126,000	
				小計	126,000	
				消費税	12,600	
				合計	138,600	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	木とふれあう学校環境づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

実施風景①



写真2

実施風景②



写真3

実施風景③



写真4

実施風景④



写真5

実施風景⑤



写真6

実施風景⑥

令和5年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
4	木とふれあう学校環境づくり事業（尾鷲中学校学習机・椅子整備）				
事業費	4,246,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,246,000		

1. 事業の目的
地元産材で制作した机及び椅子を導入することで、木の良さに触れてもらおうと共に、自分たちの机や椅子が普段見慣れている地元の山々から切り出されたものであることを知ってもらうことで、森林の大切さを学ぶツールとして活用する。
2. 事業実績概要
【事業内容】 机の天板部分、椅子の座面に地元産材を活用したものを1学年分導入する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 尾鷲市 【実施個所及び箇所数】 尾鷲中学校 1校 【事業量】 地元産材を活用した机及び椅子 100組 （令和4年度～令和6年度までの3年間で3学年分を整備予定）
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
【事業実施により期待される効果】 地元産材で製作した机及び椅子を導入することで、木の持つ温かみや香り、肌触りなどの木の良さを実感できる快適な学習環境を構築する。また、地元の森林から切り出された木材が活かされていることを知ることで、森林がもつ多様性や循環型社会の実現に向けて果たす役割などについて学ぶ機会を得ることができる。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 生徒が日ごろ使用する机及び椅子は、スチールと擬木等で構成されたものであるため、これらの一部（天板部分及び座面）を地元の「尾鷲ヒノキ」など用いた三重県産材で作成し、森林教育における教材の1つとして活用する。市職員による森林教育授業を実施し、地元産材を使って机、椅子を作成することや、普段自分達が目にしている山の再生に繋がること（切り出し→植樹→成長→森林の形成）を学ぶことで、森林整備の大切さと成長サイクル、循環型社会や持続可能な社会の実現に向けた可能性や展望などについて考える時間を設けた。 【新たな対策・視点及び改善点】 森林教育の実施においては、地域児童数の減少から参加児童の固定化が懸念されており、令和6年度以降の森林教育について対象児童及び実施箇所について検討していく必要がある。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
4	木とふれあう学校環境づくり事業（尾鷲中学校学習机・椅子整備）				
事 業 費	4,246,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,246,000		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	小売業者	補助事業ではない	-	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

一般競争入札による事業者選定。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	尾鷲中学校の生徒
期待する波及効果	地元産材を使用した机・椅子を使用することと、市職員による森林教育授業を実施することで、森林整備の大切さと成長サイクル、循環型社会や持続可能な社会の実現について学ぶことができる。

【公的関与の必要性】

中学校で生徒が使用する机・椅子の整備及び関連する森林学習であるため、管理者である市の関与が必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

学校内各教室にて管理

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・後	実施前：令和5年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和6年度当初に令和5年度事業実績の報告
広報誌掲載	実施前・後	令和6年6月号（予定）に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載
学校だより等掲載	実施後	令和5年度中に実施した事業内容の紹介 尾鷲中学校2年生学年通信で紹介 2月9日
ロゴマーク掲示 (シール・プレート等)	実施後	整備した机・椅子にロゴマーク等を貼り付け

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

生徒からは、「この机・椅子で授業を受けたいです」等のコメントをもらった。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市
事業名	木とふれあう学校環境づくり事業（尾鷲中学校学習机・椅子整備）		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
	間伐材仕様SSデスク（可動式）	台	100	21,100	2,110,000	
	間伐材仕様SSチェア（可動式）	脚	100	17,500	1,750,000	
				小計	3,860,000	
				消費税	386,000	
				合計	4,246,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	木とふれあう学校環境づくり事業(尾鷲中学校学習机・椅子整備)
-----	--------------------------------

7の(1). 写真



写真1

机・椅子完成



写真2

ロゴマーク設置位置①



写真3

ロゴマーク設置位置②



写真4

机・椅子設置①



写真5

机・椅子設置②



写真6

木育 説明

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	木とふれあう学校環境づくり事業（尾鷲中学校学習机・椅子整備）
-----	--------------------------------

7 の（2）. その他資料

普及啓発状況（尾鷲中学校学年通信）

2 年生学年通信

Step Up



2024 年 2 月 9 日(金) 2 月号

暦の上では春とは言え、まだ寒さの残る日々ですが、梅の花が一足先に春の訪れを告げているかのようです。着実に季節は移ろいでいます、ゆっくりとした歩みで…

3 学期も 1 か月が経ちました。

早いもので 2 月に入り、3 学期もおおよそ折り返しです。元日の能登半島地震には自然の脅威を感じ、被害に遭われた方々の日々の生活を思うと、今なお心痛みます。そこから得た教訓を、私たちは自分たちの生活に活かしていかなければいけません。しかし、ともすれば、私たちは、こうして変わりなく生活できていることのありがたさを忘れがちです。当たり前

に学校に来て、いつもどおりに授業を受け、友だちとワイワイにぎやかに休み時間を過ごし、部活やら、塾やら…「疲れるなあ」と思いつつも一日を終える…それは、幸せなことなのではないでしょうか。

何だか代わり映えない毎日でも、「心がけ(意識)」しだいで、見ている景色や、これから見える景色は違うものになり、積み重なって、皆さんがぐんと前進するエネルギーを生み出すように思います。

皆さんは、大切な毎日を有意義に過ごせているでしょうか。

その「心がけ」とは、挨拶や言葉遣い（気持ちのいい挨拶、相手を思いやる言葉）

取り組み方への意欲（しっかり話を聞く、期限を守る、学習・生活のあり方）

周りを見て行動する（想像力を働かせる、先を見通した行動）

感謝の気持ち、素直な気持ちを大切に

（「ありがとう」「ごめんなさい」と伝えられているだろうか）

ということがあげられます。

使い心地はどうか？

「みえ緑と森の県民税」の交付事業の一つとして、2 年生の机・いすが新しくなりました。使い始めて、3 週間ほど経ちますが、どうですか？

尾鷲ひのきを使った机といすは、明るくて、きれいで、天板が少し大きくなって、勉強する気持ちが湧いてきそうです。この机・いすもそうですが、みんなで使うもの、自分のものも、いつまでもきれいに、大切に使いましょう。



どれも、これまでお話してきたようなシンプルなことばかりです。自分のためでもあり、一緒に生活・行動する仲間のためでもあります。

3 年生になる、この準備期間を大事にし、今の自分で大丈夫かと真剣に自分の言動を見つめなければいけないと、きではないでしょうか。

今後の予定

2/15(木) 2 年生思春期教室
「自己肯定感を高めよう」(5, 6 限)
2/26(月)・27(火)・28(水)
1, 2 年生学年末テスト
3/ 8(金) 卒業式
3/19(火) 給食最終日
3/25(月) 修了式



第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
5	木とふれあう学校環境づくり事業（矢浜小学校学習机・椅子整備）				
事 業 費	2,442,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,869,000	573,000	

1. 事業の目的

新たに学校に市産材で制作した机・椅子を配置することにより、木のぬくもりにふれあう機会を提供し、快適な学習環境を整備する。また、子どもの頃から木材にふれあうことで、森林や木材に関する知識・理解を習得することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

県産材の木製机・椅子を児童自らが保護者と一緒に組立て使用することで子どもたちの森林、木材に対する興味を引き出し、森林や木材に関する知識、理解を習得する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市

【実施個所及び箇所数】

矢浜小学校 1校

【事業量】

児童用 机・椅子 60セット

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

実際に地元産材で制作された椅子を日々手に触れる教材として活用することができる。
机や椅子を地元の木材を使って児童自らが保護者と一緒に組み立てることにより、自分が使うものを自分で作ること
で愛着を持つと共に、ものを大切に作る心を育む機会と木の温もりに触れ合う機会の確保に繋げることができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

児童が使用する机・椅子は、地元の「尾鷲ヒノキ」をふんだんに使った木の温もりが感じられるものであり、それ自体が木育をするための1つの教材と捉えている。
全校児童と保護者と一緒に組み立てる作業と、市職員による地域材「尾鷲ヒノキ」についての森林学習の授業を同時に実施することで、児童・保護者に森林の重要性や地元産材の歴史などを知ってもらうことができた。

【新たな対策・視点及び改善点】

令和 5 年度事業で矢浜小学校に新規で机・椅子を整備した。尾鷲市内で未実施の 2 校（尾鷲小学校・向井小学校）への同様の机・椅子の整備について、学校の要望等も聞きながら検討していきたい。

令和5年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
5	木とふれあう学校環境づくり事業（矢浜小学校学習机・椅子整備）				
事 業 費	2,442,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,869,000	573,000	

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	森林組合	補助事業ではない	-	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

プロポーザル方式により、森林組合おわせを実施事業者として選定した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	矢浜小学校の児童
期待する波及効果	地元産材を使用した机・椅子の組み立てを児童・保護者で実施することと、市職員による森林教育授業を実施することで、児童だけでなく保護者も森林整備の重要性や地域材「尾鷲ヒノキ」について学ぶことができる。

【公的関与の必要性】

小学校で児童が使用する机・椅子の整備及び関連する森林学習であるため、管理者である市の関与が必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

学校内各教室にて管理

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・後	実施前：令和5年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和6年度当初に令和5年度事業実績の報告
広報誌掲載	実施前・後	令和6年6月号（予定）に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載
HP掲載	実施後	令和5年度中に実施した事業内容の紹介 市公式SNS（Instagram等）に掲載 10月4日
ロゴマーク掲示（シール・プレート等）	実施後	整備した机・椅子にロゴマーク等を貼り付け
学校だより等掲載	実施後	矢浜小学校学級通信10月号に掲載 10月13日

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

子どもたちからは、「机と椅子がとてもきれい」、「授業をより集中して受けることができる」等のコメントをいただいた。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市
事業名	木とふれあう学校環境づくり事業（矢浜小学校学習机・椅子整備）		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
組立式木製児童用机		台	60	20,500	1,230,000	
組立式木製児童用椅子		脚	60	16,500	990,000	
				小計	2,220,000	
				消費税	222,000	
				合計	2,442,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	木とふれあう学校環境づくり事業(矢浜小学校学習机・椅子整備)
-----	--------------------------------

7の(1). 写真



写真1

木育 説明風景



写真2

机・椅子の組み立て風景①



写真3

机・椅子の組み立て風景②



写真4

机・椅子完成



写真5

ロゴマーク設置位置①



写真6

ロゴマーク設置位置②

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	木とふれあう学校環境づくり事業(矢浜小学校学習机・椅子整備)
-----	--------------------------------

7の(2). その他資料

普及啓発状況(矢浜小学校学校通信)



10月

尾鷲市立矢浜小学校 学校通信

やのはまっ子

第10号
令和5年10月13日
矢浜小校長室 発行

尾鷲ヒノキ製机・椅子の組立作業～自分たちで作ることの意味

9月30日(土)、午前中を特設の「土曜授業日」とし、保護者の皆様にもご来校頂いて、全児童が自らが使う尾鷲ヒノキ製の机と椅子の組み立て作業に取り組みました。

この取組は、「みえ森と緑の県民税」を活用し尾鷲市が「木とふれあう学校環境づくり事業」として実施しているもので、当日は市水産農林課の職員の方々をはじめ、森林組合おわせの皆様も来校くださり、本校体育館で組立作業のお手伝いをしてくださいました。

最初に、6年生の「おわせ育」でもお世話になっている市水産農林課の岩屋仁志さんから、尾鷲の基幹産業である林業や尾鷲ヒノキの特徴等について、プロジェクターによる画像を使って教えて頂いた後、いよいよ児童たちは、箱に入った組立キットをワクワクしながら開封。普段は手にしない六角レンチや木づち・金づちなどを手に、ねじ穴や突起を合わせてはめ込んだり、ボルトを通したり…といった慣れない作業を、保護者の方々と一緒に「あーでもない、こーでもない」と1時間半ほど行い、ようやく自分の机・椅子を完成させました。完成させた机・椅子は、これまた保護者の方々と一緒に自分の教室に搬入し、これまで使っていた机・椅子(尾鷲小学校で再利用されます)を体育館まで運び出しました。

児童たちは、今回製作した机・椅子を、10月から卒業を迎える日まで使うことになります。(6年生のものは、卒業後新1年生に引き継がれ、代々使われることになります)




今回の取組は、当初「教職員だけで作ろうか?」、「土曜日に実施するのだから、児童も先生も保護者もあくまで『ボランティア』という形で…」といったいくつかの案があったのですが、最終的に「総合的な学習の時間」といった「授業」としてしっかりと位置づけ、保護者の方々が参加しやすい土曜日に設定して実施することとしました。なぜなら、授業として実施するに足る、児童たちにとっても学校にとっても大切な意義が、この取組にはたくさん見出せると考えたからです。

- ❶ 苦労して自分で作り上げることで、「ものを最後まで大切に使う」心が養われる。
(ましてや、保護者の方や地域の方々には手伝ってもらっているのだからなおさらです)
- ❷ 尾鷲の基幹材である尾鷲ヒノキや、基幹産業である林業への理解や愛着が深まる。
(ひいては、自分たちの故郷・尾鷲に対する誇りや郷土愛が一層感得されていきます)
- ❸ 「学校」「家庭」「地域」の三位一体となった子どもの育成支援のスタイルが定着していく。

お休みの中でのご協力、本当にありがとうございました。皆様のおかげで、児童たちの満足感や達成感も倍増したと思います。今後とも本校教育活動への一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
6	中村山公園整備事業				
事 業 費	3,421,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,176,740	1,232,502	11,758

1. 事業の目的	
身近に木と親しむことのできる市街地の中心にある自然豊かな中村山公園を整備し、安全安心に多くの市民が自然に触れ合う機会を設け、豊かな生活環境を実現することを目的とする。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 市民が自然と触れ合える親しみやすい公園を整備するため、危険木や景観上支障のある樹木及び雑草等の除去を実施する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 尾鷲市 【実施個所及び箇所数】 1 箇所（中村山公園） 【事業量】 中村山公園に植生している危険木や景観上支障のある樹木及び雑草等の除去。	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【事業実施により期待される効果】 枯損木や危険木の伐採を行った結果、公園の計画向上や公園利用者の安全性の確保をすることができた。特に緊急避難路に影響の出る危険木を伐採できたことにより、安全性が確保された。また、高木を伐採したことにより公園周辺への日当たりを向上し公園利用者だけでなく周辺住民の生活の向上にもつながった。、現状においても、未だ木々が生い茂り危険木等も存在することから、引き続き、樹木等の伐採を行い、市民が使いやすく親しみやすい公園に整備することにより自然と触れ合える拠点を提供することができる。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 伐採木は、近隣住民の意見を参考としながら選定をおこなった。 【新たな対策・視点及び改善点】 中村山公園は町の中心部にあり多くの住民が様々な用途で訪れるため親しまれている。また、緊急避難場所にもなっており、小学校からは直通の避難路も設けられているため、非常に重要な拠点である。緑豊かな公園としてより親しまれるように整備を進めていくほか、防災上の観点からも整備を今後も進めていく必要があると考えている。	

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
6	中村山公園整備事業				
事 業 費	3,421,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,176,740	1,232,502	11,758

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない	-	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

- ・指名競争入札による業務委託
- ・安全面と専門的な技術が必要となるため

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	利用する市民
期待する波及効果	伐採により景観も良くなり、多くの住民が安心安全に遊べる場所となったとともに、桜の名所としての整備を行っていくことにより、将来市内外から来園者が訪れる公園を目指す。

【公的関与の必要性】

市有地（都市公園）であるため、市が管理を行う必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市有地であるため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・後	実施前：令和5年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和6年度当初に令和5年度事業実績の報告
広報誌掲載	実施前・後	令和6年6月号（予定）に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載
標識・標柱等設置	実施後	実施場所付近に標柱を設置して県民税活用を周知する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

日当たりが良くなったことや危険な状態になっていた木がなくなって安心して歩けるなどの声があった。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市
------	--------------------	-----	-----

事業名	中村山公園整備事業
-----	-----------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
	中村山公園立木伐採処理業務	式	1	3,110,000	3,110,000	
				小計	3,110,000	
				消費税	311,000	
				合計	3,421,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	中村山公園整備事業
-----	-----------

7の(1). 写真



写真1

中村山公園伐採前その1



写真2

中村山公園伐採後その1



写真3

中村山公園伐採前その2



写真4

中村山公園伐採後その2



写真5

お仕事HAPPY DAY青竹ふみ作り



写真6

PR標柱 設置

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
7	矢浜公園ほか立木伐採・処理及び森林教育事業				
事 業 費	2,805,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			672,000	2,133,000	

1. 事業の目的
子供から大人まで市民の憩いの場として活用されている市内の公園内の樹木を整備し、安全に安心して多くの市民が公園内で遊んだり寛ぐことができる、豊かな生活環境を実現することを目的とする。
2. 事業実績概要
【事業内容】 ・公園内において落下の恐れのある腐朽枝や園周辺の樹木の伐採、枝の剪定、倒木の恐れのある危険木の伐採、景観の支障となっている樹木の伐採、及び雑草等の除去を実施した。 ・小学生を対象とした森林教育を実施。（8月に間伐体験、12月に木工教室） 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 尾鷲市 【実施箇所及び箇所数】 2箇所（矢浜公園、北浦児童公園） 【事業量】 ・矢浜公園及び矢浜コミュニティセンターでの森林教育 ・矢浜公園内の高木、景観に支障をきたす樹木の伐採、剪定。 ・北浦児童公園内の高木の伐採
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
【事業実施により期待される効果】 2公園とも多くの市民の憩いの場となっている公園である。いずれの公園の樹木も高木となり、枝が園外へ張り出していたり、風雨により折れやすくなっている状態であることから、それらを伐採することにより、公園利用者が安全安心に利用できるようにし、憩いの場として緑豊かな公園としてより多くの人に訪れてもらえるように整備をする。 また、小学生を対象に間伐体験及び木工教室を実施することにより、自然の大切や身近な自然の親しみを持ってもらえるようにする。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 伐採木は、近隣住民の意見を参考としながら選定をおこなった。 矢浜公園では小学生を対象に伐採木を活用した森林教育（間伐・木工体験）を実施した 【新たな対策・視点及び改善点】 森林教育の実施においては、地域児童数の減少から参加児童の固定化が懸念されており、令和6年度以降の森林教育について対象児童及び実施箇所について検討していく必要がある。

令和5年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
7	矢浜公園ほか立木伐採・処理及び森林教育事業				
事業費	2,805,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			672,000	2,133,000	

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない	-	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】 ・指名競争入札による業務委託 ・安全面と専門的な技術が必要となるため 【主な経費内訳】 (別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	利用する市民			
期待する波及効果	危険な状態となっていた園内の樹木を伐採、剪定したことにより、来園者が安心して利用できるようになった。また、園外へ張り出している枝を伐採したことにより周辺を通行する人の安全性も向上した。			
【公的関与の必要性】 市有地（都市公園）であるため、市が管理を行う必要がある。 【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 市有地であるため、転用等が想定されず、該当しない。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
HP掲載	実施前・後	実施前：令和5年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和6年度当初に令和5年度事業実績の報告		
広報誌掲載	実施前・後	令和6年6月号（予定）に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載		
標識・標柱等設置	実施前・後	実施場所付近に標柱を設置して県民税活用を周知する。		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				
公園の見晴らしがよくなった。森林教育等を受けた小学生からは、「楽しかった」、「また次も受けたい」等の感想をもらった。				

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市
事業名	矢浜公園ほか立木伐採・処理及び森林教育事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
	矢浜公園ほか立木伐採処理及び森林教育業務	式	1		2,550,000	
				小計	2,550,000	
				消費税	255,000	
				合計	2,805,000	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	矢浜公園ほか立木伐採・処分及び森林教育事業
-----	-----------------------

7の(1). 写真



写真1

矢浜公園伐採前



写真2

矢浜公園伐採後



写真3

間伐体験（8月）



写真4

森林教育（8月）



写真5

木工教室（12月）



写真6

PR標柱 設置

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	矢浜公園ほか立木伐採・処分及び森林教育事業
-----	-----------------------

7 の（1）．写真



写真1

北裏児童公園伐採前その 1



写真2

北裏児童公園伐採後その 1



写真3

北裏児童公園伐採前その 2

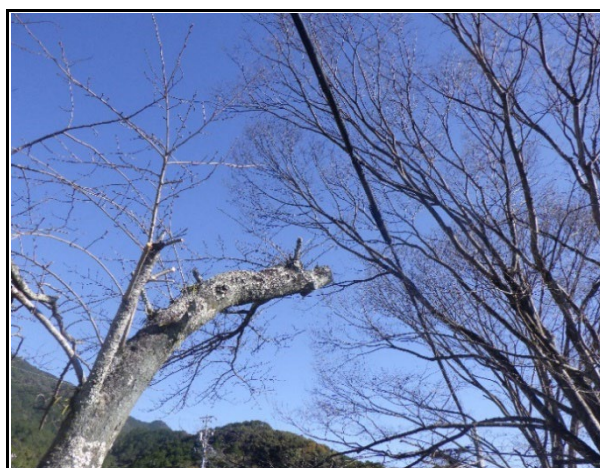


写真4

北裏児童公園伐採後その 2



写真5

PR標柱 設置



写真6

PR標柱 設置

資料 2－2

紀 北 町

令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報「三重県市町要覧（令和5年度版）」「令和4年度版森林・林業統計書」による

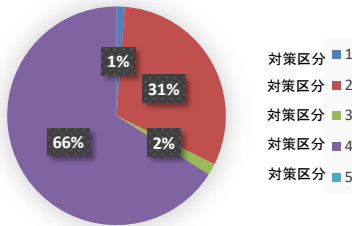
市町名	紀北町	三重県
人口（人）	13,611	1,731,863
年少人口割合（％）＊1	7.4%	11.6%
森林面積(ha)	22,931.86	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	18,007.88	348,561.87
森林率(%)	89.0%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	55.4	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分 1	対策区分 2	対策区分 3	対策区分 4	対策区分 5
1	1	河川周辺森林立枯木整備事業	405,593	405,593	405,593				
2	2	危険木伐採事業	11,178,066	10,216,466		10,216,466			
3	2	集落周辺森林（里山）整備事業	150,640	150,640		150,640			
4	3	森林環境教育活動支援事業	563,301	563,301			563,301		
5	4	町内学校等木質化事業	26,277,844	22,007,341				22,007,341	
計			38,575,444	33,343,341	405,593	10,367,106	563,301	22,007,341	0

3. 令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	14.69ha	5,956,500	5,956,500	等高線並べの間伐による緩衝林化
森林再生力強化対策事業	3,745m	2,527,667	2,527,667	鳥獣害防護柵新設・補修
災害からライフラインを守る事前伐採事業	0	0	0	

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	町民の安全・安心を守る暮らしに身近な森林づくりと、次世代を担う子どもたちが森林の大切さを学ぶ機会の創出
事業実施により期待される効果	河川周辺森林立枯木整備事業では、立枯木を伐採してしまうことにより、大雨が降った際に下流域の橋梁等を損傷させてしまうリスクを減らすことができた。危険木伐採事業においては、事業実施主体である各区の森林管理の意識の向上が見られ、補助金活用の要望が増加した。
情報発信への取組	紀北パーキングエリア内の始神テラスの一角や、町内イベントブースに展示スペースを設け事業成果を示したパネル展示や、ノベルティの配布を行った。また、町民向けの行政放送テレビチャンネルで県民税について取り扱いを行い、事業実施地にはPR用の木製標柱を設置した。

第 11 号様式（その 1）（参考資料）

年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	① 意向調査の準備作業	24,118	24,118
2	③ 私有林整備	24,697	24,697
3	⑥ 林道・林専道の整備等	5,833	5,833
4	⑨ 林業就業者の育成	735	735
5	⑬ 木造公共建築物の整備等	3,926	3,926
6	⑳ 基金積立（執行残額等）	1,317	1,317
7			
8			
9			
10			
	合計	60,626	60,626

【記載要領】

ア. 事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	河川周辺森林立枯木整備事業				
事 業 費	405,593 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			405,593		

1. 事業の目的
近年、集中豪雨や台風襲来により、山腹崩壊が多発し、土砂が河川沿いに堆積し、河川沿いの立ち枯れが生じている。これらの立ち枯れ木を放置すれば、今後の集中豪雨により立ち枯れ木が下流域に流れ出し、災害を引き起こす恐れが高いため、伐採・搬出し流木の発生を抑制する。
2. 事業実績概要
【事業内容】 河川周辺森林内において、河川沿いの立ち枯れ木等を伐採、搬出して流木の発生を抑制する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 町 【実施箇所及び箇所数】 1箇所（江竜地区） 【事業量】 搬出材積（m³）江竜地区21.13m³
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
【事業実施により期待される効果】 過年度の集中豪雨等で堆積した土砂により枯れた立木を伐採、搬出することで下流域への流出が抑制され、実施地区での安全、安心が確保される。流域住民、漁業関係者等への流木被害が軽減された。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 伐倒木は下流域への影響が出ないよう残置せずバイオマス搬出等で有効活用している。 【新たな対策・視点及び改善点】 施業地を分割して広範囲を施業することができた。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	河川周辺森林立枯木整備事業				
事 業 費	405,593 円	(財源内訳)	当年度交付金 405,593	市町基金	その他

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		実施主体が紀北町である

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

河川周辺での枯れ木伐採に係る作業技術を有している団体に見積りを徴収しを選出した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	流域住民、漁業関係者 長島地区 約1488戸 海山地区 約1789戸
期待する波及効果	流域住民の安全確保、漁業関係者への被害軽減

【公的関与の必要性】

個人では立ち枯れ木の伐採には手間も費用も掛かることで伐採が遅れてしまうため、町が関与する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

特に設けていない

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施箇所に県民税のロゴ入りの標柱等を設置して町民に周知を図る
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
TV（行政チャンネル等）	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

周辺住民や所有者から、河川内の状況がよくなったと好評を得ている。

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	紀北町
事業名	河川周辺森林立枯木整備事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
委託料	伐採搬出経費	m ³	21.13	18,237	385,353	江竜地区
標柱代	みえ森と緑の県民税標柱	本	1.00	20,240	20,240	
		合計			405,593	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-------------------------	-----	-----	---------	----

事業名	河川周辺森林立枯木整備事業
-----	---------------

7の（1）. 写真



写真1

令和5年度 江竜① 【作業前】



写真2

令和5年度 江竜① 【作業後】



写真3

令和5年度 江竜② 【作業前】



写真4

令和5年度 江竜② 【作業後】



写真5



写真5



写真6



写真6

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	危険木伐採事業				
事 業 費	11,178,066 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			10,216,466		961,600

1. 事業の目的

人家や公共施設等に隣接した山林等において、倒木の恐れがある危険木を伐採することによって被害を未然に防止し、家屋や施設、人命を守り、生活環境の保全や安全性の向上を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

人家等に隣接し、倒木になる恐れのある危険木について、緊急に伐採する必要があるが、所有者による伐採が困難である場合に限り、その費用の一部を自治会に補助して伐採する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

自治会、紀北町

【実施箇所及び箇所数】

自治会12箇所（船津2、山本、小浦、三浦、田山、片上2区、萩原台、便ノ山、引本浦、相賀、片上1区）

公共施設14箇所（生涯学習センター、海山公民館、赤羽公園、海山グラウンド2、キャンプin海山、引本浦治山施設、片上地区町有地、松本児童公園、西長島墓地、長浜児童遊園地、幼稚園、小学校、中学校）

【事業量】

自治会12箇所 206本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

人家裏や公共施設等の危険木を事前に伐採することにより、集中豪雨や強風時の倒木による危険性を未然に回避し、地域住民の生活環境の向上や公共施設等の安全、安心が確保されるとともに、住民の森林整備に対する意識の向上が見込める。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

実施した自治会に回覧板等により周知する。

【新たな対策・視点及び改善点】

危険木伐採の補助要綱において、伐採箇所の地目が「山林」であるものを対象としていたが、受益者等からの強い要望があり、現況が山林化している急傾斜地等に対しても対象とするよう改めたことから、広く希望に対応できるようになり、地目が「保安林」であるのものや、その他の地目で生活環境の改善が進んでいる。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	危険木伐採事業				
事 業 費	11,178,066 円	(財源内訳)	当年度交付金 10,216,466	市町基金	その他 961,600

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び 補助対象者等	③補助率・ 負担率等	④補助の上限及び 定額補助の額	備考
補助事業	自治会等	9/10以内	1申請につき1年 度50万円の上限	
委託事業	紀北町			

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請書の提出と早期対応の必要があるかを添付書類にて判断。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	12自治会、住宅、道路、集会所等
期待する波及効果	隣接する人家等の安全性の確保

【公的関与の必要性】

個人での危険木の伐採には手間も費用もかかり負担が大きいことから伐採が遅れてしまうため、補助によって早期に伐採することが出来る。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町の補助金交付要綱により転用や目的外使用について制限はかけていない。自治会が森林所有者から事業実施の同意を得た上で森林内での必要最低限の危険木伐採を行う。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施箇所に県民税のロゴ入りの標柱等を設置して町民に周知を図る
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
TV（行政チャンネル等）	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

資料 2 - 2

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名						
2	危険木伐採事業						
事 業 費	11,178,066 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他		
			10,216,466		961,600		

8. その他特記事項（受益者の反応等）							
暮らしに身近な森林づくりの重要性を再認識し、税を活用する事業であることを自治会（地区住民）で議論していただくために、自治会としての要望書の提出を事前に義務付けている。 事業実施により森林所有者はもとより、各地区の住民が森林管理の必要性を再認識し、森林整備の意識醸成につながった。また各自治会からは、人家裏山林の状況を再度確認した上で事業に取り組みたいと聞いている。							

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町
事業名	危険木伐採事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
標注代	みえ森と緑の県民税標柱	本	12.00	20,240	242,880	自治会箇所
標注代	みえ森と緑の県民税標柱	本	14.00	20,240	283,360	公共各箇所
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	250,000	250,000	船津区（自治会）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	303,000	303,000	山本区（自治会）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	247,000	247,000	小浦区（自治会）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	445,000	445,000	三浦区（自治会）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	206,000	206,000	船津区（自治会）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	445,000	445,000	田山区（自治会）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	500,000	500,000	片上2区（自治会）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	209,000	209,000	萩原台区（概算）（自治会）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	24,000	24,000	萩原台区（自治会）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	396,000	396,000	便ノ山区（自治会）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	500,000	500,000	引本浦区（自治会）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	79,000	79,000	相賀区（自治会）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	500,000	500,000	片上1区（自治会）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	581,900	581,900	引本区治山施設（公共）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	332,200	332,200	片上区町有地（公共）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	1,766,126	1,766,126	松本公園 他（公共）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	380,000	380,000	学校施設①（公共）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	380,000	380,000	学校施設②（公共）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	698,000	698,000	学校施設③（公共）
		小計（a）			8,768,466	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町
事業名	危険木伐採事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	187,000	187,000	生涯学習センター（公共）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	243,000	243,000	海山公民館（公共）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	398,000	398,000	赤羽公園（公共）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	275,000	275,000	海山グラウンド（公共）
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1.00	345,000	345,000	キャンプin海山（公共）
		小計（b）			1,448,000	
		（a）＋（b）合計			10,216,466	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

7の(1). 写真



写真1

令和5年度実施 三浦地区（伐採前）

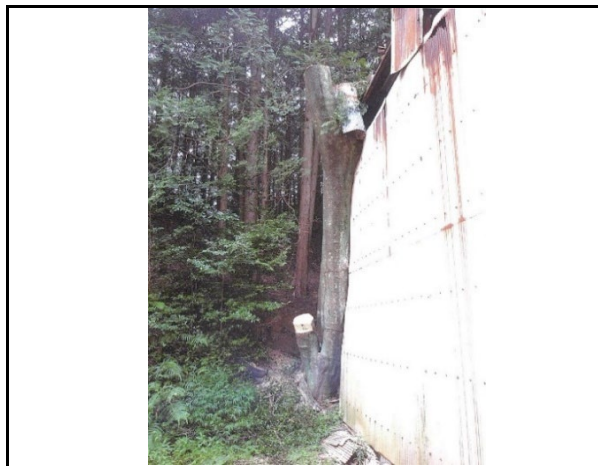


写真2

令和5年度実施 三浦地区（伐採後）



写真3

令和5年度実施 片上1区（伐採前）



写真4

令和5年度実施 片上1区（伐採後）



写真5

令和5年度実施 片上地区町有地（伐採前）



写真6

令和5年度実施 片上地区町有地（伐採後）

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	集落周辺（里山）整備事業				
事 業 費	150,640 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			150,640		

1. 事業の目的

当地域は、沿岸部に人家が密集し、背後に急傾斜地を有する人家が多く、近い将来想定される東南海地震による津波の襲来が心配される。また、近年人家周辺山林に人が入ることが少なくなり、野生動物の隠れ場になっているケースも多い。

このような集落周辺の荒廃が進む森林を、住民自らが整備することで、森林のもつ多面的な機能を活用し、安全安心・快適な生活環境を創出していく。

2. 事業実績概要

【事業内容】

集落周辺の里山において、風倒木の伐採、不要萌芽の除去、雑草木の刈払い、土留め、林内歩道の設置など、森林整備活動を実施した地域住民で組織する団体（ボランティア団体）に補助する

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

地域住民で組織する団体（ボランティア組織）

【実施箇所及び箇所数】

3箇所（1団体）、箇所名：大台ヶ原尾鷲道、木津道 白石湖周回登山道 団体名：NTRC

【事業量】

整備箇所

大台ヶ原尾鷲道 11,100m 木津道 760m 白石湖周回登山道 6,000m 面積 計2.67ha

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

森林整備することで、住民が安心安全かつ、気軽に里山に立ち入りできるようになり、林内を良好な状態に保つことができるとともに、野生動物による獣害の防止や住民協働による里山整備の拡大などへの波及効果が

【効果を発揮させるための工夫・取組】

NTRCに対し、本事業の取り組みを継続的に実施するよう求めた。

【新たな対策・視点及び改善点】

団体にホームページ、ブログ、SNS等で県民税活用の積極的なPRを求める。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	集落周辺（里山）整備事業				
事 業 費	150,640 円	(財源内訳)	当年度交付金 150,640	市町基金	その他

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	その他	1ヘクタール当たり16万円を上限とする。補助金の額は1団体、年度当たり20万円を上限とする。	3名以上で組織する団体が自主的に取り組む、集落周辺の森林整備等に関する保全活動及び森林環境整備活動に直接必要と認められる経費（人件費、食糧費等は除く。）

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

荒廃した里山等の再生並びに集落周辺の登山道等の整備など、暮らしに関わりの深い森林づくりが地域住民の自主的な取り組みにより継続的に実施されることを期待するとともに、最小限の費用で整備することが可能

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	登山者、森林所有者
期待する波及効果	森林の適切な整備と、登山者の安全確保

【公的関与の必要性】

紀北町は「自然と共生の町」を宣言しており、豊かな自然のある大台ヶ原への登山道の整備であることから、税を活用した登山者の安全確保は必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

登山道については以前から登山者や森林所有者が利用しており、今後も同様の活用となると考えられる。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施箇所に県民税のロゴ入りの標柱等を設置して町民に周知を図る
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
TV（行政チャンネル等）	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

登山者からは、登山道の環境が整備がされ、安全性が増したという意見をいただいている。

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町
事業名	集落周辺（里山）整備事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金	NTRC	式	1.00	130,400	130,400	延長 尾鷲道 111,00m 木津道 760m 白石湖周回登山道 6,000m
標注代	みえ森と緑の県民税標柱	本	1.00	20,240	20,240	
		合計			150,640	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	集落周辺（里山）整備事業
-----	--------------

7の（1）. 写真



写真1

令和5年度実施 木津道【整備前】



写真2

令和5年度実施 木津道【整備中】



写真3

令和5年度実施 白石湖周回登山道【整備前】



写真4

令和5年度実施 白石湖周回登山道【整備後】



写真5



写真5



写真6



写真6

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
4	森林環境教育活動支援事業				
事 業 費	563,301 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			563,301		

1. 事業の目的

環境林や公有林、学校林等を活用し、森林環境教育活動及び森林・林業作業体験活動、木育活動を実施し、次代を担う児童や生徒、地域住民に対して、森林の持つ様々な公益的機能や役割、森林環境に関する正しい知識の提供と理解の促進を図る機会を創出し、森林や林業に理解の深い人材の育成を目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

森林環境教育活動及び森林・林業作業体験活動では、森林環境学習、林業作業体験、県産材を活用した木製品品の製作体験等を実施する。

木育活動では、木の実や木の葉などの森林の恵みを生かした小物作り等、県産材を使用した身近な木製品（おもちゃ、箸、コースター、ストラップ等）作り等を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

町

【実施箇所及び箇所数】

町主体：紀北中学校1年生 生徒38名 教員4名、三船中学校2年生 生徒8名 教員2名

団体主体：東小学校6年生 生徒22名

【事業量】

町主体：尾鷲ヒノキ林業に関する座学と山林での間伐体験を上記中学校2校で実施

団体主体：林業に関する講話、尾鷲ヒノキを使った卒業記念制作ベンチ作り

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

当地域で盛んに行われてきた林業が、従事者の激減とともに衰退し、手入れされていない山林が増加するなど山林の荒廃が急激に進行している。

こうした現状の中、植えて、育てて、使い、また植える林業の循環の重要性や森林の持つ公益的な機能の重要性を町内の子供たちに理解してもらうとともに、林業という仕事について知り、興味を持ってもらう機会を創出する。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

本事業に向けて学校側であらかじめ環境学習を行っているところもあったため、児童らはどれくらいの学習を受けているのかを事前に確認打ち合わせることで学校の授業では得られない部分をより深く学ぶ森林への知識や興味を引き出すことが期待できる。

【新たな対策・視点及び改善点】

参加者に啓発物品を配布するなど県民税のPRを行う。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
4	森林環境教育活動支援事業				
事 業 費	563,301 円	(財源内訳)	当年度交付金 563,301	市町基金	その他

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び 補助対象者等	③補助率・ 負担率等	④補助の上限及び 定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	10/10以内	—	
直営	森林組合	補助事業ではない	—	小中学校に対する森林環境教育の実施

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

校長会により本事業の呼びかけを行い希望のあった学校で実施。町主体の事業に講師として尾鷲ヒノキ林業に詳しい森林組合おわせ職員を選定。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	参加児童、生徒 中学生46名、小学生22名
期待する波及効果	林業に対する正しい知識の習得、職業としての林業従事者への興味

【公的関与の必要性】

現地での森林整備体験に町有林を活用可能。教育委員会及び学校との連携、調整が容易。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施箇所に県民税のロゴ入りの標柱等を設置して町民に周知を図る
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
TV（行政チャンネル等）	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する
啓発物品配布	実施中	実施主体の団体等による情報発信（紹介動画等の案内）を通じて周知を図る
広報誌掲載	実施後	事業内容を掲載して町民に周知を図る
のぼり設置	実施中	実施箇所に設置し、町民に周知を図る

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

参加児童から感想の聞き取り時に、将来は林業の仕事に就きたいとの感想を得られた。

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀北町
事業名	森林環境教育支援事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金	東小学校	式	1.00	356,670	356,670	概算払
補助金	東小学校	式	1.00	38,630	38,630	精算
報奨費	講師委託料	式	1.00	60,060	60,060	講師委託料 紀北中
報奨費	講師委託料	式	1.00	30,030	30,030	講師委託料 三船中
保険料	参加者保険料	式	1.00	2,100	2,100	森林環境教育傷害保険料（紀北中1年生42名）
保険料	参加者保険料	式	1.00	12,600	12,600	森林環境教育傷害保険料（三船中2年生10名）
消耗品費	アイゼン	式	1.00	46,530	46,530	M×10、L×10
消耗品費	環境教育消耗品購入費	式	1.00	6,409	6,409	軍手 他
消耗品費	環境教育消耗品購入費	式	1.00	10,272	10,272	ブルーシート 他
		合計			563,301	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育活動支援事業
-----	--------------

7の（1）. 写真



写真1

令和5年度環境教育 補助事業 三船中 事前座学



写真2

令和5年度環境教育 補助事業 三船中 間伐体験



写真3

令和5年度環境教育 東小学校 ベンチ作り



写真4

令和5年度環境教育 東小学校 ベンチ完成

写真5

写真5

写真6

写真6

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
5	町内学校等木質化事業				
事 業 費	26,277,844 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
				22,007,341	4,270,503

1. 事業の目的

町内の学校施設等に県産材を用いた木質化の整備を進めることにより、森林の保全や木の文化の継承、地域活性化などについて学習する機会を創出し、児童園児の木材や森林に対する意識を向上させ、森林や林業に理解の深い人材の育成を図る。

また、木質化された環境でのストレス緩和効果や湿度調整の効果による細菌の繁殖抑制により子供たちの健康増進を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

町内の学校施設等を木質化し、学習環境の向上を図る。また、事業にあわせて伐採や施工の現場見学や、体験を織り交ぜた森林環境教育を行うことで児童園児の木材や森林に対する意識を向上させ、森林や林業に理解の深い人材の育成を図る。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

町

【実施個所及び箇所数】

相賀小学校、紀伊長島幼稚園

【事業量】

相賀小学校（ウッドデッキ整備 一式）、紀伊長島幼稚園（図書室床整備 一式）

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

児童園児の学習環境を向上させるとともに、森林に対する意識の啓蒙を図る。また、木材の加工、利用、整備等を見学することで、森林整備や木材加工等に興味を持つ機会を創出する。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

本事業に向けて学校側であらかじめ環境学習を行っているところもあったため、児童らはどれくらいの学習を受けているのかを事前に確認打ち合わせることで学校の授業では得られない部分をより深く学ぶ森林への知識や興味を引き出すことが期待できる

【新たな対策・視点及び改善点】

整備後の防腐剤塗布等のメンテナンスについて、児童生徒の環境教育の一環として定期的実施することで、施設の維持を図りたい。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
5	町内学校等木質化事業				
事 業 費	26,277,844 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
				22,007,341	4,270,503

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
工事請負	森林組合	補助事業ではない	—	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

地域産材の木材利用、加工等について、尾鷲ヒノキに詳しい森林組合おわせ職員を選定。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	相賀小学校生徒、紀伊長島幼稚園園児
期待する波及効果	木質化された環境でのストレス緩和効果や湿度調整の効果による細菌の繁殖抑制に

【公的関与の必要性】

現地での森林整備体験に町有林を活用可能。教育委員会及び学校との連携、調整が容易。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
TV（行政チャンネル等）	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する
啓発物品配布	実施中	実施主体の団体等による情報発信（紹介動画等の案内）を通じて周知を図る
広報誌掲載	実施後	事業内容を掲載して町民に周知を図る

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

令和5年8月28日 紀伊長島幼稚園園児3名から感想の聞き取り時に、木がきれい、いい匂い等の感想を得られた。

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	紀北町
事業名	町内学校等木質化事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
相賀小学校	ウッドデッキ改修工事	式	1.00	3,199,675	3,199,675	
相賀小学校	ウッドデッキ改修工事	式	1.00	2,627,442	2,627,442	
相賀小学校	ウッドデッキ改修工事	式	1.00	7,458,000	7,458,000	
相賀小学校	ウッドデッキ改修工事	式	1.00	3,333,000	3,333,000	
相賀小学校	ウッドデッキ改修工事	式	1.00	7,101,600	7,101,600	
紀伊長島幼稚園	図書室床改修工事	式	1.00	956,722	956,722	前金払い分
紀伊長島幼稚園	図書室床改修工事	式	1.00	1,601,405	1,601,405	
		合計			26,277,844	

第11号様式（その2）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	町内学校等木質化事業
-----	------------

7の（1）. 写真



写真1

令和5年度 紀伊長島幼稚園図書室床 改修①

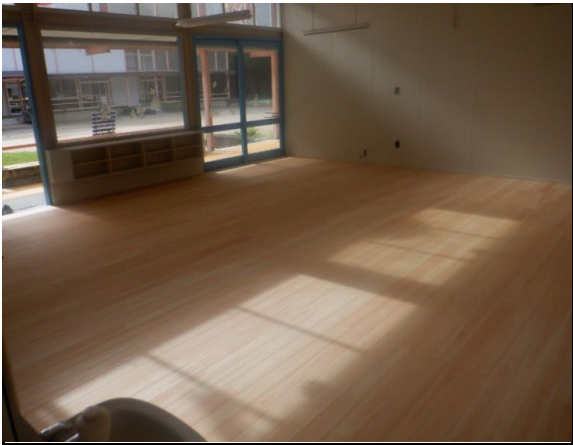


写真2

令和5年度 紀伊長島幼稚園図書室床 改修②

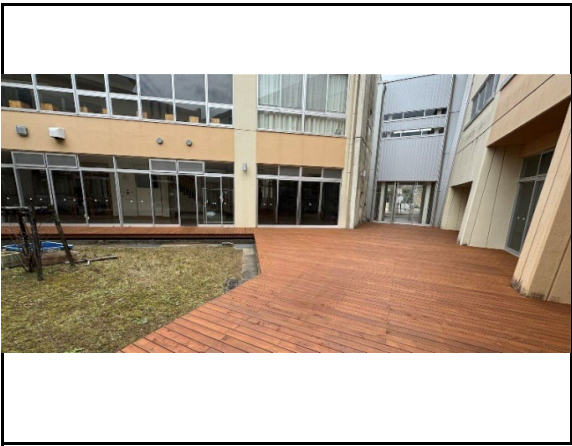


写真3

令和5年度 相賀小学校ウッドデッキ 改修①

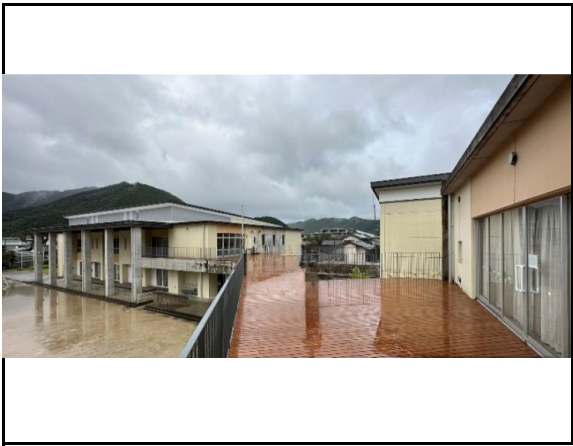


写真4

令和5年度 相賀小学校ウッドデッキ 改修②

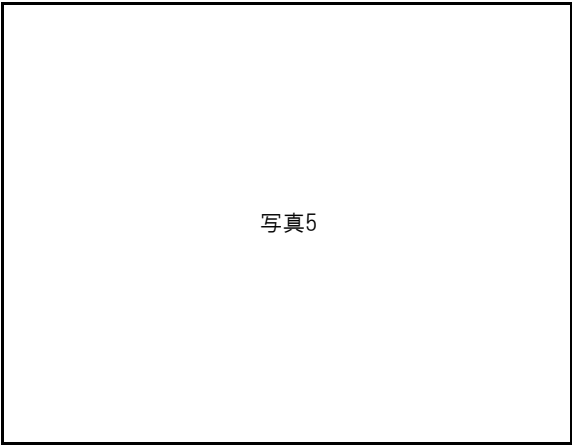


写真5

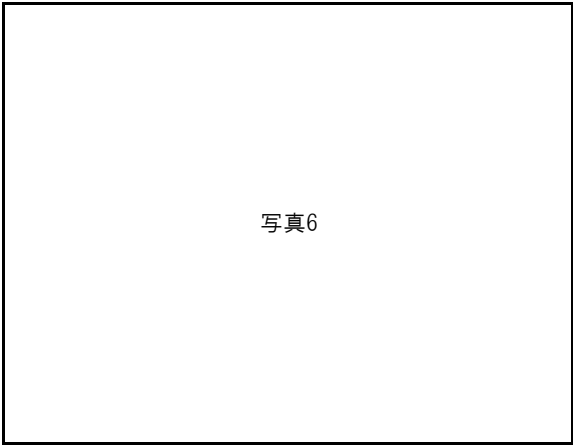


写真6

写真5

写真6

資料 2－2

熊 野 市

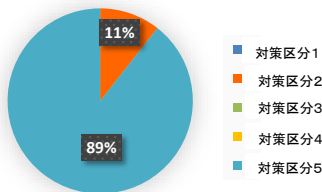
令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報「三重県市町要覧（令和5年度版）」「令和4年度版森林・林業統計書」による

市町名	熊野市	三重県
人口（人）	14,926	1,731,863
年少人口割合（％）＊1	9.3%	11.6%
森林面積(ha)	32,942.33	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	29,628.77	348,561.87
森林率(%)	88.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	12.5	10.6

- ＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合
＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）
＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5
1	2	小・中学校危険木伐採・枝切事業	2,422,061	1,738,705		1,738,705			
2	5	森とふれあいの場拠点づくり事業	14,679,900	14,672,900					14,672,900
計			17,101,961	16,411,605	0	1,738,705	0	0	14,672,900

3. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	7.10ha	7,051,000	7,051,000	災害緩衝林実施箇所周辺の調整伐
森林再生力強化対策事業	4,258m	2,863,488	2,863,488	獣害防護柵設置
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針
熊野市の地勢は内陸に向かうに従って紀伊山地の急峻な山地となり、森林面積は総面積の88%を占めている。また、民有林面積は29,628haと全森林の約90%を占め、うち人工林は22,921haと県下でも有数の林業地域である。しかしながら、林業を取り巻く環境は木材の長期的な低迷に加え、担い手の減少、林業従事者の高齢化、生産基盤の立ち遅れ等が極めて厳しく、このまま推移すれば森林の整備水準の低下等により公益的機能が十分に発揮されないなど、住民生活への影響が懸念されている。そのため、「災害に強い森林づくりと環境林の保全」という熊野市森林・林業ビジョンの基本方針の1つに沿って、防災機能の強化による安全・安心の実現、里山林整備と奥地天然林や溪畔林の保全、身近な森林の恵みを活用する環境づくりなど、森林が与えてくれるさまざまな恩恵を評価した上で、森林と積極的に付き合っていく取組を展開していく。令和5年度については、多くの利用者が継続して利用している森林公園に対し、樹木育成のための下刈りや支障木伐採を行い、多くの利用者・来訪者に緑を身近に感じてもらう環境づくりに取り組んだ。また、市内の小・中学校の校庭において、倒木のおそれがある危険木を伐採することにより、児童生徒の安全・安心の確保に取り組んだ。
事業実施により期待される効果
市が公益性の判断で実施する事業には特定機能の維持を図るもののほか、生活道路や施設の利用者など多くの人々に効果を及ぼすものが多く、県民税事業を行うことにより、安全・安心に地元の森林や自然とふれあう環境を整備することができ、市民だけでなく市への来訪者にも恩恵を受けてもらう。
情報発信への取組
事業実施の際にはのぼりや看板によって県民税のPRを行っているが、広い市域の中にあって事業箇所が点在しており、利用者の目にふれる機会が少ないことから、市のホームページに事業の計画と実績を紹介し、また市の玄関口であるJR熊野市駅や市街地に近い市文化交流センターにおいて例年パネル展示を行っている。

第 11 号様式（その 1）（参考資料）

令和 5 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	① 意向調査の準備作業	220	220
2	② 意向調査	2,545	2,545
3	⑥ 林道・林専道の整備等	4,070	4,070
4	⑦ その他（森林整備）	123,586	123,586
5	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	676	676
6	⑯ その他（木材・普及啓発関係）	8,800	8,800
7	⑰ 基金積立（森林整備等）	33,883	33,883
8			
9			
10			
	合計	173,780	173,780

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
1	小・中学校危険木伐採・枝切事業				
事 業 費	2,422,061 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,725,100	13,605	683,356

1. 事業の目的					
倒木のおそれがある危険木を除去することにより、児童・生徒をはじめとする校庭等の利用者が今後も安全・安心・快適に利用できる環境づくりを行う。					
2. 事業実績概要					
【事業内容】 倒木のおそれがある学校敷地内の危険木の伐採・枝切を行った。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 熊野市 【実施個所及び箇所数】 5 箇所（神上小・中学校、五郷中学校、木本小学校、有馬小学校、荒坂中学校） 【事業量】 神上小・中学校 7 本、五郷中学校 1 本、木本小学校 2 本、有馬小学校 19 本、荒坂中学校 2 本					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【事業実施により期待される効果】 校庭の利用や隣接道路の通行の際の安全・安心のが確保され、樹木に囲まれた施設の快適利用が維持される。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 児童・生徒のみならず、ゲートボール愛好者などの地域団体も校庭等を利用していることから、学校を核とした地域活動が今後も維持される。 【新たな対策・視点及び改善点】 これまでに十分に手入れがされず、危険な状態で放置されていたため、当事業により適切な対応を行うことによって安全な環境を整えることができる。					

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
1	小・中学校危険木伐採・枝切事業				
事 業 費	2,422,061 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,725,100	13,605	683,356

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	建設業者	補助事業ではない		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】 高所作業車の取扱いに秀で、市街地でも安全に作業を実施できる能力と実績のある事業者に委託を行った。 【主な経費内訳】 (別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	神上小・中学校…地域住民230人、 五郷中学校…地域住民644人、 木本小学校…児童62人及び地域住民1,609人、 有馬小学校…児童153人及び地域住民3,694人、 荒坂中学校…地域住民258人			
期待する波及効果	周辺通行者や校庭等を利用する地域団体等への波及効果も期待できる			
【公的関与の必要性】 対象となる施設は市が管理する施設であり、これらを適切な状態に維持して利用者に活動の場として提供することが市の方針である。 【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 施設の管理者である熊野市が適正に管理していく。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
施工看板に掲示	実施中			
のぼり設置	実施中			
パネル展示	実施後	事業結果のパネル展示を行う。		
HP掲載	実施前・後	年度当初に予定事業を掲載し、事業結果は翌年度当初に公表する。		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				
「子どもたちの安全が確保され、安心して学校で学ぶ環境が整備された」「危険な木は伐採してほしいが、木に親しむために緑がある環境を維持してほしい」「クマノザクラを植えてほしい」などの声が聞かれた。				

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市
------	-----------------	-----	-----

事業名	小・中学校危険木伐採・枝切事業
-----	-----------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木伐採	ヒノキ×1、サクラ×3、ビ ワ×2、イチヨウ×1	本	7.00		1,067,000	神上小・中学校
危険木伐採	メタセコイア×1	本	1.00		245,300	五郷中学校
危険木伐採	サクラ×2	本	2.00		363,000	木本小学校
危険木伐採	ホルト×1、サクラ×1、アメリカツガ ×1、ヤマモモ×1、ハゼノキ×15	本	19.00		493,761	有馬小学校
危険木伐採	サクラ×2×1、キリ×1	本	2.00		253,000	荒坂中学校
		合計			2,422,061	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	新規
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	小・中学校危険木伐採・枝切事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

危険木伐採（神上小・中学校）施工前



写真2

危険木伐採（神上小・中学校学校）施工後



写真3

危険木伐採（五郷中学校）施工前



写真4

危険木伐採（五郷中学校）施工後



写真5

危険木伐採（木本小学校）施工前



写真6

危険木伐採（木本小学校）施工後

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	新規
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	小・中学校危険木伐採・枝切事業
-----	-----------------

7の（1）. 写真



写真1
危険木伐採（有馬小学校）施工前



写真2
危険木伐採（有馬小学校学校）施工後



写真3
危険木伐採（荒坂中学校）施工前



写真4
危険木伐採（荒坂中学校）施工後

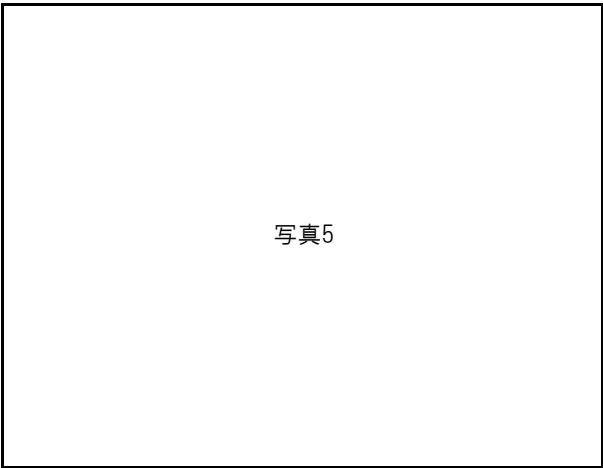


写真5

写真5

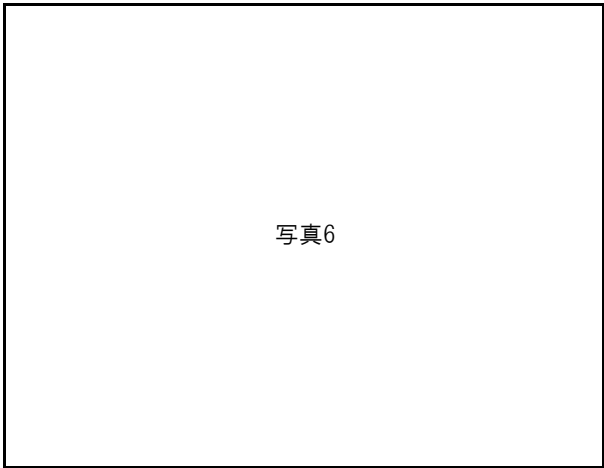


写真6

写真6

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
2	森とふれあいの場拠点づくり事業				
事業費	14,679,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			13,180,900	1,492,000	7,000

1. 事業の目的
市民が身近に水や緑を感じ、熊野古道をはじめとした地域の歴史や自然に親しむことのできる森林公園や遊歩道などの整備を行うことで、より市民に利用され、日常的に森林環境学習や木育の拠点として水や緑に親しむ箇所を創出する。また、令和 2 年 11 月に熊野市の花木に指定した、この地域固有の種であるクマノザクラにより、一層緑や樹木に関心を高めるための新たな魅力付けを進めていく。
2. 事業実績概要
【事業内容】 森と緑と日常的に快適にふれあえることのできる拠点づくりのため、歩道の修繕や枯損木・雑草木の除去、支障木の伐採を行った。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 熊野市 【実施箇所及び箇所数】 下刈 7 箇所（鬼ヶ城園地、小鳥の囀る森公園、湯ノ口公園、夕陽の丘公園、田平子公園、小口谷クマノザクラ園地、大峰近隣公園）、風倒木処理 1 箇所（鬼ヶ城園地）、遊歩道整備 2 箇所（大峰近隣公園、熊野古道通り峠道）、支障木伐採 4 箇所（赤坂公園、松前公園、下平公園、磯崎町地内） 【事業量】 下刈等 13.83ha、風倒木処理 17 本、遊歩道整備（注意喚起柵 88m、木柵改修 75m）、支障木伐採 30 本
3. 有効性【2 つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
【事業実施により期待される効果】 森とのふれあいの場を整備することで日頃から森林にふれあうことのできる環境を提供できる。同時に、それぞれの森林公園等を利用する協力団体が実施する森林環境学習等を通じて、より市民が森林にふれあうという相乗効果を図ることができる。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 整備を実施した施設に対しては、周辺の宿泊施設での館内放送・マップ配布により利用を促進している。また、トレイルランニングレースやボルダリング大会などのイベント時の利用を行い、施設の PR を行っている。 【新たな対策・視点及び改善点】 これまで適切な整備を行うことで快適な利用が可能になっていると市民から好評を得ているため、今後も継続して整備を行う必要がある。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	森とふれあいの場拠点づくり事業				
事 業 費	14,679,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			13,180,900	1,492,000	7,000

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

本事業で実施する山林内での下刈や支障木伐採には専門的な知識と技術が必要であるため、類似業務の実績が豊富な森林組合に委託するのが適当であると判断したため。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	鬼ヶ城園地30,000人、小鳥の囀る森公園300人、湯ノ口公園7,000人、夕陽の丘公園300人、田平子公園300人、小口谷クマノザクラ園地100人、大峰近隣公園100人、熊野古道通り峠道4,500人、下平公園1,000人、松前公園1,000人、赤坂公園1,000人
期待する波及効果	周辺を利用する観光客・イベント参加者への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

対象となる施設は市が管理する施設であり、これらを整備してさらなる利用者の増加を図り、森林のもたらす恩恵を利用者に享受してもらうことが市の方針である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設の管理者である熊野市が適正に管理していく。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施中	
のぼり設置	実施中	
パネル展示	実施後	事業結果のパネル展示を行う。
HP掲載	実施前・後	年度当初に予定事業を掲載し、事業結果は翌年度当初に公表する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市
------	--------------------	-----	-----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
森林公園下刈		ha	13.83		3,754,700	
風倒木処理		本	17.00		390,500	
遊歩道整備	注意喚起柵設置	m	88.00		261,800	
遊歩道整備	木柵改修	m	75.00		5,940,000	
支障木伐採		箇所	4.00		4,332,900	
		合計			14,679,900	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

下刈り（鬼ヶ城園地）施工前



写真2

下刈り（鬼ヶ城園地）施工後



写真3

下刈り（小口谷クマノザクラ園地）施工前



写真4

下刈り（小口谷クマノザクラ園地）施工後



写真5

下刈り（小鳥の囀る森公園）施工前



写真6

下刈り（小鳥の囀る森公園）施工後

第11号様式(その2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

下刈り（田平子公園）施工前



写真2

下刈り（田平子公園）施工後



写真3

下刈り（夕陽の丘公園）施工前



写真4

下刈り（夕陽の丘公園）施工後



写真5

下刈り・歩道草刈り（湯ノ口公園）施工前



写真6

下刈り・歩道草刈り（湯ノ口公園）施工後

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

下刈り・歩道草刈り（大峰近隣公園）施工前

写真2

下刈り・歩道草刈り（大峰近隣公園）施工後



写真3

下刈り（鬼ヶ城園地）施工中



写真4

下刈り（小口谷クマノザクラ園地）施工中



写真5

下刈り（小鳥の囀る森公園）施工中



写真6

下刈り（田平子公園）施工中

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

下刈り（夕陽の丘公園）施工中

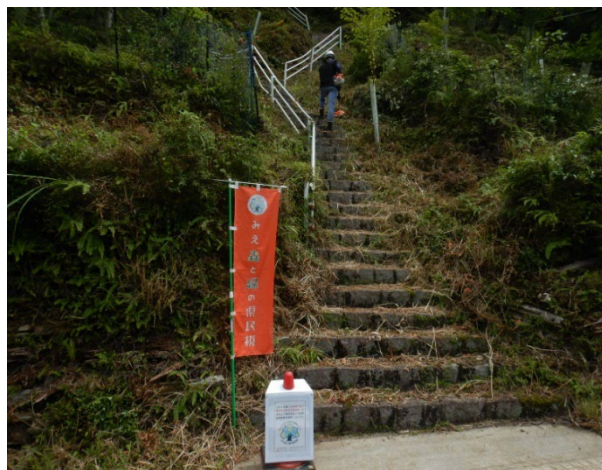


写真2

下刈り・歩道草刈り（湯ノ口公園）施工中



写真3

下刈り（大峰近隣公園）施工中



写真4

写真4



写真5

遊歩道整備・注意喚起柵設置（大峰近隣公園）施工前



写真6

遊歩道整備・注意喚起柵設置（大峰近隣公園）施工後

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

風倒木処理（鬼ヶ城園地）施工前



写真2

風倒木処理（鬼ヶ城園地）施工後



写真3

遊歩道整備・木柵改修（熊野古道通り峠道）施工前



写真4

遊歩道整備・木柵改修（熊野古道通り峠道）施工後



写真5

支障木伐採（赤坂公園）施工後①



写真6

支障木伐採（赤坂公園）施工後②

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

支障木伐採（松前公園）施工後①



写真2

支障木伐採（松前公園）施工後②



写真3

支障木伐採（下平公園）施工後①



写真4

支障木伐採（下平公園）施工後②

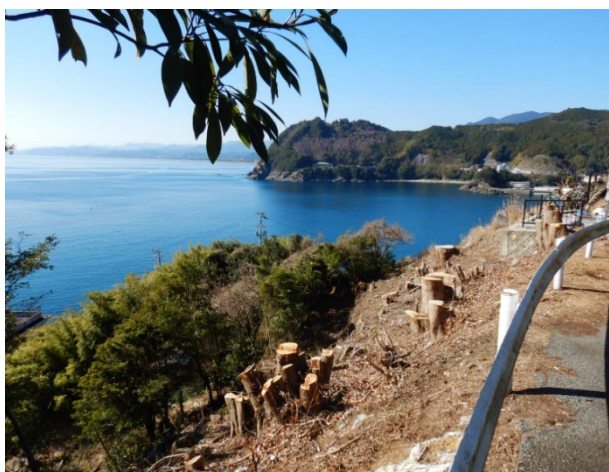


写真5

支障木伐採（磯崎ビューポイント）施工後①

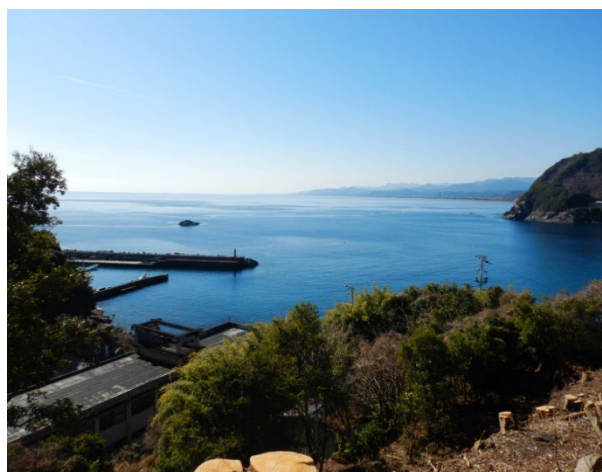


写真6

支障木伐採（磯崎ビューポイント）施工後②

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	市町名	熊野市
事業名	情報発信（各事業共通）	

7. 写真



写真1

パネル展示①（熊野市文化交流センター）



写真3

HP掲載①

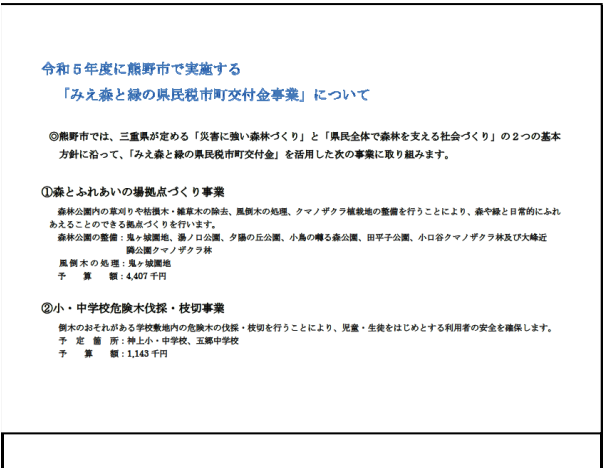


写真5

HP掲載③（R5事業紹介部分）



写真2

パネル展示②（熊野市文化交流センター）



写真4

HP掲載②（前年度（R4）事業実績紹介部分）



写真6

資料 2－2

御 浜 町

令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報「三重県市町要覧（令和5年度版）」「令和4年度版森林・林業統計書」による

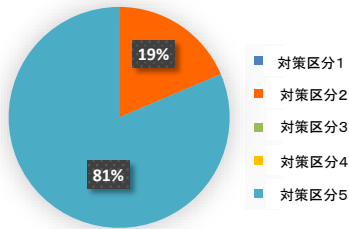
市町名	御浜町	三重県
人口（人）	7,738	1,731,863
年少人口割合（％）＊1	10.1%	11.6%
森林面積(ha)	5,696.85	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	5,603.74	348,561.87
森林率(%)	65.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	21.6	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5
1	2	学校危険木伐採事業	627,000	627,000		627,000			
2	2	町道危険木伐採事業	974,266	974,266		974,266			
3	5	森林公園等環境整備事業	7,009,600	7,005,516					7,005,516
計			8,610,866	8,606,782	0	1,601,266	0	0	7,005,516

3. 令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	本町は、県南部に位置し、東部は雄大な太平洋熊野灘に面した海岸線沿いには、比較的平坦な低地が広がりますが、内陸部では山岳地帯を形成しており、人工林率は71%と県平均の62%を上回っていて、かつては積極的に植林がされてきた地域です。しかし林業経営の悪化などから森林への関心は薄れ、適切な整備がされず森林が持つ公益的機能が十分に発揮でいる状態ではない森林も見受けられます。 このことを踏まえ、みえ森と緑の県民税市町交付金を活用し、小中学校内や町道沿線の危険木の伐採や枝下ろしを行うことで町民の生活環境等の保全や向上を図り、「災害に強い森林づくり」を進めます。また、不特定多数の人が集まる町内の地元産品販売所等への木製備品配置を支援するとともに、森林公園等のフィールド整備を行うことで住民が木や緑とふれあう環境を身近なものにし、木の良さや木を使うことが森林整備につながることの重要性を広くPRしていく「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めます。
事業実施により期待される効果	町民や来訪者に利用される遊歩道及び公園を整備することで、多くの人が森林や緑と触れ合う機会をつくることができた。寺谷公園を遠足先とする小学校もあり、また家族の利用者も多いため、地域の子供たちが森林にふれる環境をつくることができた。
情報発信への取組	町民や施設利用者へ県民税を活用して整備が行われていることを周知するため、作業期間中に県民税ののぼり等の設置、庁舎内でのパネル掲示を行った。

第 1 1 号様式（その 1）（参考資料）

令和5年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	② 意向調査	2,629	2,629
2	⑦ その他（森林整備）	12,321	12,321
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	14,950	14,950

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
1	学校危険木伐採事業				
事 業 費	627,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			627,000		

1. 事業の目的

学校内の支障木の伐採、枝打ち等を行うことで学校の環境美化と児童生徒の安全に努めるとともに、木や森について学ぶ森林教育を通じて森林を支える社会づくりを目指す。

2. 事業実績概要

【事業内容】

阿田和中学校の伐採、枝下ろし等を行うとともに、木や森について学ぶ森林教育を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

御浜町

【実施個所及び箇所数】

阿田和中学校

【事業量】

危険木伐採 6 t 程度

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

学校内の危険木を整理することで環境美化と生徒の安全安心を高めるとともに、各学校が独自に森林教育を開催し、森づくりの重要性を学ぶ。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

生徒や教員・保護者だけでなく、地域住民も校庭等を利用していることから、学校を核とした地域活動が今後も維持される。

【新たな対策・視点及び改善点】

これまで危険木の伐採を行っていなかったため、学校危険木の伐採を契機として、身近な木や森林について学習する機会を作る。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	御浜町	新規・継続の別	新規
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	学校危険木伐採事業				
事 業 費	627,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			627,000		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない	—	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

本事業で実施する危険木伐採には専門的な知識と技術が必要であるため、類似業務の実績が豊富な森林組合に委託するのが適当であると判断したため。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	生徒及び教員約100人
期待する波及効果	校庭等を利用する地域団体等への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

対象となる施設は御浜町が管理する施設であり、これらを適切な状態に維持して利用者に活動の場として提供することが市の方針である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設の管理者である御浜町が適正に管理していく。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施前・中	工事実施中の施工看板に税事業であることを表記しPRを図る。
のぼり設置	実施中	事業実施箇所にのぼりを設置し税事業のPRを図る。
ポスター掲示	実施前・中・後	学校内にポスターを掲示して、県民税の周知を行う。
パネル展示	実施後	事業実施結果のパネル展示を行い、住民に森林の重要性を周知する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	御浜町
------	-----------------	-----	-----

事業名	学校危険木伐採事業
-----	-----------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木伐採		式	1.00	627,000	627,000	
		合計			627,000	

第11号様式（その2）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	新規
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	学校危険木伐採事業
-----	-----------

7の(1). 写真



写真1

阿田和中学校（校舎横の危険木）

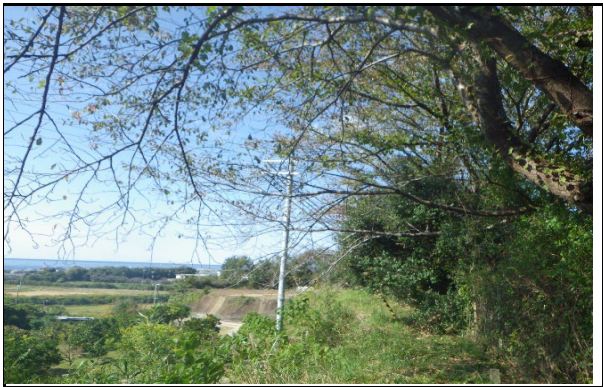


写真2

阿田和中学校（校庭横の危険木）



写真3

阿田和中学校危険木伐採（完成）



写真4

阿田和中学校危険木伐採（完成）



写真5

阿田和中学校危険木伐採（完成）



写真6

阿田和中学校危険木伐採（完成）

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
2	町道危険木伐採事業				
事 業 費	974,266 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			974,266		

1. 事業の目的

町道沿線の台風等の影響により倒木等の恐れのある危険木を伐採することにより、町道の通行止めや道路利用者への落下を未然に防止し、道路利用者の安全安心を確保することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

町道大田丸塚線沿いの危険木を伐採し、安全な道路運行に努める。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

御浜町

【実施箇所及び箇所数】

町道大田丸塚線

【事業量】

危険木伐採 延長70m、刈幅 5 m

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

町道沿いの危険木を伐採することで、道路利用者の安全安心が確保される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

危険木伐採により、落下の未然防止を広報などで周知することで、道路利用者の安全管理を適切に維持している。

【新たな対策・視点及び改善点】

これまでも町民から生活道路の危険木除去の要望があったため、中山間部に位置する主要町道の危険木を集中的に伐採・撤去する。（集中的に実施することで、高所作業車の借り上げ経費の削減を図る）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
2	町道危険木伐採事業				
事 業 費	974,266 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			974,266		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	建設業者	補助事業ではない	—	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
高所作業車の取扱いに秀で、安全に作業を実施できる能力と実績のある事業者に委託を行った。				
【主な経費内訳】				
(別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	約9,000人			
期待する波及効果	安全性を確保することにより、道路利用者・地域住民への波状効果が期待できる			
【公的関与の必要性】				
対象となる施設は御浜町が管理する施設であり、これらを適切な状態に維持して利用者に提供する必要がある。				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】				
施設の管理者である御浜町が適正に管理していく。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
施工看板に掲示	実施前・中	工事実施中の施工看板に税事業であることを表記しPRを図る。		
のぼり設置	実施中	事業実施箇所にのぼりを設置し税事業のPRを図る。		
パネル展示	実施後	事業実施結果のパネル展示を行い、住民に森林の重要性を周知する。		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	御浜町
事業名	町道危険木伐採事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木伐採	高所作業車、誘導員、 木くず処理、危険木伐 採	式	1.00	974,266	974,266	
		合計			974,266	

第11号様式（その2）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	新規
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	町道危険木伐採事業
-----	-----------

7の（1）. 写真



写真1
大田丸塚線（着工前）



写真2
大田丸塚線（着工前）



写真3
大田丸塚線（伐採状況）



写真4
大田丸塚線（伐採状況）



写真5
大田丸塚線（完成）



写真6
大田丸塚線（完成）

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	森林公園等環境整備事業				
事 業 費	7,009,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,577,734	1,427,782	4,084

1. 事業の目的

健康づくりの一環として山歩きや森林浴など、町民が森林とふれあおうとする機運が高まってきている。御浜町には遊歩道を有する小高い山とそれに隣接する公園があり、多くの住民が利用している。遊歩道、公園及び東屋周辺を整備することで、住民が森林や緑とふれあう環境を身近なものにする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

クマノザクラ植栽、寺谷公園支障木伐採・擬木、浅間山遊歩道案内看板製作

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

御浜町

【実施個所及び箇所数】

3 箇所（浅間山、寺谷公園、川瀬東屋周辺）

【事業量】

遊歩道整備500m、草刈り4.23ha、看板3カ所設置、クマノザクラ150本植栽、支障木整理7本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

町民や来訪者に利用される遊歩道及び公園を整備することで、多くの人が森林や緑と触れ合うことができる。寺谷公園を遠足先とする小学校もあり、また家族の利用者も多いため、地域の子供たちが森林にふれる環境を適切に維持することにつながる事が期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

クマノザクラ植栽では地域住民参加型の植林祭を開催し、今後の植栽でも開催を予定している。
また、遊歩道の月数回パトロール・ごみ拾いなどを委託し安全管理と環境整備を適切に維持している。

【新たな対策・視点及び改善点】

これまでも小学校の遠足等に併せて森林教育の実施してきたが、このようなしくみを通じて森林教育の場として広報する。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	森林公園等環境整備事業				
事 業 費	7,009,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,577,734	1,427,782	4,084

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	造園業者	補助事業ではない	—	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

クマノザクラ植栽や危険木伐採等に関する知識と経験を備えている必要がある。信頼度・組織力・地域性及び実績を鑑みて委託するのが適当であると判断したため。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	約9,000人
期待する波及効果	周辺を利用する観光客・イベント参加者への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

対象となる施設は御浜町が管理する施設であり、これらを整備してさらなる利用者の増加を図り、森林のもたらす恩恵を利用者に享受してもらう必要があると考えるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設の管理者である御浜町が適正に管理していく。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施前・中	工事実施中の施工看板に税事業であることを表記しPRを図る。
のぼり設置	実施中	事業実施箇所にのぼりを設置し税事業のPRを図る。
パネル展示	実施後	事業実施結果のパネル展示を行い、住民に森林の重要性を周知する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町
事業名	森林公園等環境整備事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
クマノザクラ植栽		式	1.00	3,685,000	3,685,000	寺谷公園内
森林公園等環境整備		式	1.00	2,310,000	2,310,000	公園内、斜面
寺谷公園支障木伐採		式	1.00	178,200	178,200	公園内、斜面
寺谷公園擬木設置		式	1.00	374,000	374,000	公園内、斜面
浅間山遊歩道案内看板製作		式	1.00	462,400	462,400	遊歩道入口
		合計			7,009,600	

第11号様式（その2）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林公園等環境整備事業
-----	-------------

7の(1). 写真



写真1

寺谷公園クマノザクラ（植栽前）



写真2

寺谷公園クマノザクラ（植栽後）



写真3

森林公園環境等整備（草刈り）



写真4

寺谷公園支障木伐採

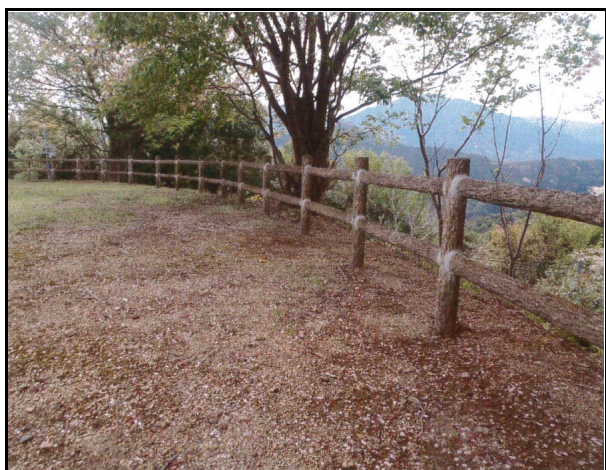


写真5

寺谷公園展望台の擬木



写真6

浅間山遊歩道看板設置

資料 2－2

紀 宝 町

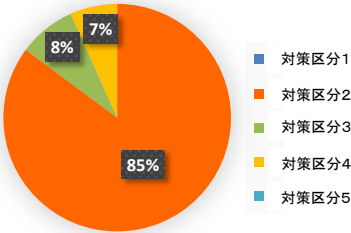
令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報「三重県市町要覧（令和5年度版）」「令和4年度版森林・林業統計書」による

市町名	紀宝町	三重県
人口（人）	9,951	1,731,863
年少人口割合（％）＊1	11.1％	11.6％
森林面積(ha)	6,071.30	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	6,026.59	348,561.87
森林率(%)	76.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	7.9	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合
＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）
＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分 1	対策区分 2	対策区分 3	対策区分 4	対策区分 5	基金積立
1	2	生活環境林整備事業	11,229,440	10,482,022		10,482,022				
2	3	森と緑の環境教育事業	1,000,000	1,000,000			1,000,000			
3	4	三重の木ベンチ設置事業	825,000	825,000				825,000		
計			13,054,440	12,307,022	0	10,482,022	1,000,000	825,000	0	0

3. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量 (ha)	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要	備考
流域防災機能強化対策事業	3.54	2,955,700	2,955,000	間伐事業	産業：林業振興費：委託料 ：みえ森と緑の県民税市町交付金事業 業務委託料

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	みえ森と緑の県民税市町交付金においては、森林環境譲与税を財源とした森林施策とすみ分けをおこないながら、町の森林主要施策としての重要財源と位置づけて活用していく。
事業実施により期待される効果	当町が公益性の判断のもと実施する事業においては、特定機能の維持を図るもののほか、生活道路や施設の利用者など多くの人々に影響を及ぼすものが多く、町民のみならず周辺の県民が恩恵を受けている。
情報発信への取組	各種集客イベントの際、県民税のPRをチラシの配布によりおこなっている。登り旗の掲示も行った。その他、町ホームページ、役場庁舎内においてのパフレットの配布など。

第 1 1 号様式（その 1）（参考資料）

令和 5 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	① 意向調査の準備作業	454	454
2	⑦ その他（森林整備）	20,338	20,338
3	⑥ 林道・林専道の整備等	2,393	2,393
4	⑩ 専門員の雇用	700	700
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	23,885	23,885

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	生活環境林整備事業				
事 業 費	11,229,440 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,452,000	4,030,022	747,418

1. 事業の目的	
公共施設の周辺や生活道路沿いの緑地・竹林等の整備や危険木等の伐採または枝下ろしすることにより、災害時等の倒木を未然に防ぎ、生活環境の向上を図る。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 公共施設の周辺や生活道路沿いの緑地・竹林等の整備や危険木等の伐採及び枝下ろしを行う。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 紀宝町 【実施個所及び箇所数】 町内 6 地区（井田、鵜殿他）公共施設・生活道周辺等 【事業量】 公共施設・生活道周辺等の支障木・危険木の伐採、竹林整備及び緑地整備	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【事業実施により期待される効果】 該当箇所の整備により、公共施設や生活道周辺等の環境が良好になる。災害時等の倒木の危険性が減る。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 今後も森林所有者（町・個人）により適切に管理する。 【新たな対策・視点及び改善点】 住民からの要望も多く、事業効果が高いことから、今後も継続して事業に取り組んでいく。	

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名					
1	生活環境林整備事業					
事 業 費	11,229,440 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			6,452,000	4,030,022	747,418	

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
請負事業	伐採事業者	補助事業ではない		
委託事業	その他	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

紀宝町内において、伐採、下刈り等森林整備の実績がある業者及び町建設業組合に加盟している業者を選定した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	6 地区（井田、大里、鶴殿、成川、北桧杖、浅里）の住民
期待する波及効果	該当箇所の整備により、公共施設や生活道周辺等の環境が良好になる。災害時等の倒木の危険性が減る。

【公的関与の必要性】

町有地の整備又は、個人所有の山林であるが、危険性が高く個人での対応が困難な場所の整備の為、町で整備を行った。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林所有者による管理のもと、危険木等の伐採・緑地整備であり、皆伐等を考えていない為、転用制限等を考えていない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・後	
チラシ等配布	実施中	事業対象住民地区
のぼり設置	実施中	事業実施箇所
パネル展示	実施後	役場庁舎内

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

生活道路の通行環境が良くなり、災害時等の危険が軽減され、竹林整備や緑地整備により景観もよくなった。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町
事業名	生活環境林整備事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
支障木・危険木の伐採	井田地区井田農村公園樹木伐採	式	1.00	160,800	160,800	産業：林業振興費；委託料：みえ森と緑の県民税市町交付金事務業務委託料
	井田地区井田農村公園樹木伐採（近接工事に伴う委託業務）	式	1.00	398,640	398,640	産業：林業振興費；委託料：みえ森と緑の県民税市町交付金事務業務委託料
	大里地区林道那智河線支障木伐採	式	1.00	354,200	354,200	産業：林業費；林道費；工事請負費
	鵜殿地区長谷町有地支障木伐採	式	1.00	1,859,000	1,859,000	総務：財産管理費；委託料：町有林整備委託料
	大里・成川地区町道田代七滝線他1路線倒木伐採	式	1.00	232,100	232,100	基盤：土木費；道路橋梁費；工事請負費
	井田地区町道下り場線支障木伐採	式	1.00	396,000	396,000	基盤：土木費；道路橋梁費；工事請負費
	井田地区奥地川支障木伐採	式	1.00	737,000	737,000	基盤：土木費；道路橋梁費；工事請負費
緑地整備	大里地区（京城跡）緑地整備	式	1.00	572,000	572,000	教育：文化財保護費；委託料：京城跡調査環境整備委託料
	鵜殿地区森林公園緑地整備	式	1.00	256,300	256,300	基盤：保健衛生費；委託料：公園及び公共緑地管理委託料
	北桧杖地区林道北桧杖浅里線緑地整備	式	1.00	1,334,300	1,334,300	産業：林業費；林道費；工事請負費
	鵜殿地区自然公園周辺緑地整備	式	1.00	834,900	834,900	産業：保健衛生費；農村公園費；委託料
竹林整備	浅里地区竹林整備	式	1.00	4,094,200	4,094,200	産業：林業費；林業振興費；委託料
		合計			11,229,440	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

7の(1). 写真

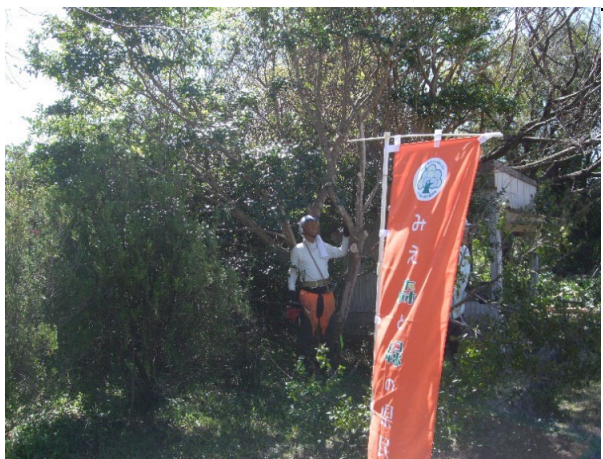


写真1

井田地区井田農村公園樹木伐採（施工中）



写真2

井田地区井田農村公園樹木伐採（施工後）



写真3

井田地区井田農村公園樹木伐採（近接工事に伴う委託業務）



写真4

大里地区林道那智河線支障木伐採



写真5

鵜殿地区長谷町有地支障木伐採（施工前）



写真6

鵜殿地区長谷町有地支障木伐採（施工中）

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

7の(1). 写真



写真7

大里・成川地区町道田代七滝線他1路線倒木伐採（施工前）



写真8

大里・成川地区町道田代七滝線他1路線倒木伐採（施工後）



写真9

井田地区町道下り場線支障木伐採（施工前）



写真10

井田地区町道下り場線支障木伐採（施工後）



写真11

井田地区奥地川支障木伐採（施工前）



写真12

井田地区奥地川支障木伐採（施工中）

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

7の(1). 写真



写真13

大里地区(京城跡)緑地整備(施工後)



写真14

鵜殿地区森林公園緑地整備(施工中)



写真15

北桧杖地区林道北桧杖浅里線緑地整備(施工前)



写真16

北桧杖地区林道北桧杖浅里線緑地整備(施工後)



写真17

鵜殿地区自然公園周辺緑地整備(施工前)



写真18

鵜殿地区自然公園周辺緑地整備(施工中)

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

7の(1). 写真



写真19
浅里地区竹林整備（施工前）



写真20
浅里地区竹林整備

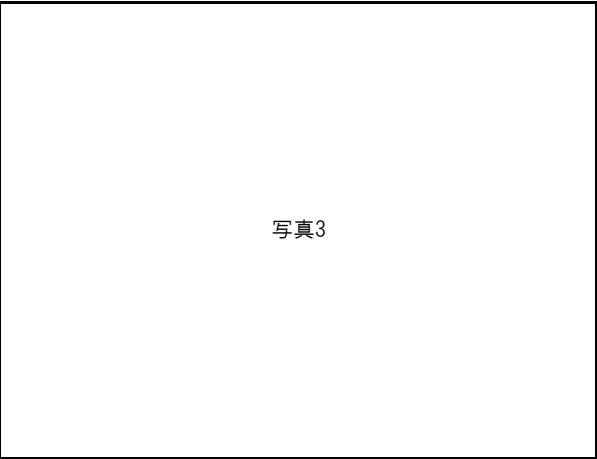


写真3

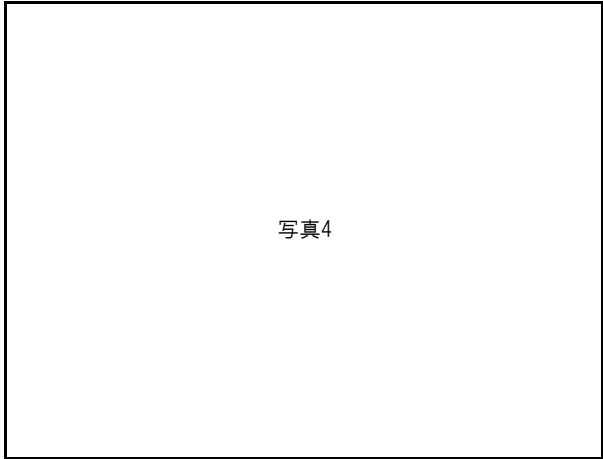


写真4



写真21



写真22

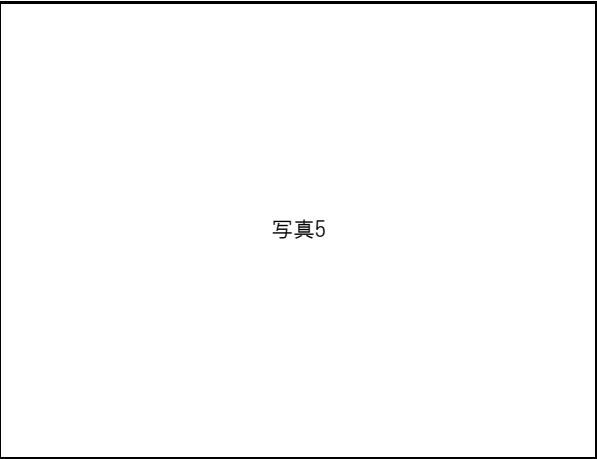


写真5



写真6



写真23



写真24

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名						
2	森と緑の環境教育事業						
事 業 費	1,000,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他		
			1,000,000				

1. 事業の目的

子どもから大人まで多くの町民の方々に、森や緑について学び、ふれあう機会を提供することにより、身近にある紀宝町の自然の魅力を再発見し、森や緑を守り育てることの大切さを、より一層理解していただくことを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

森や緑について学び、ふれあう機会を提供することにより、紀宝町の自然の魅力を再発見し、森や緑を守り育てることの大切さを、より一層理解していただくことができるよう、豊かな里山づくり講座などの環境学習講座や里山ワークショップ、講演会などを行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

紀宝町教育委員会

【実施個所及び箇所数】

該当なし

【事業量】

講演会1回、講座 1 回、ワークショップ 1 回

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

森や緑について学び、身近にある紀宝町の自然の魅力を再発見することにより、子どもから大人まで多くの町民の方々に、森や緑を守り育てることの大切さを理解していただけることが期待できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

各イベントだけでなく森林等への関心を持っていただくよう県民税や森林に対する想いを聞き取るアンケートを実施、また参加者全員に県民税のパンフレットと啓発グッズを配布することにより周知に努めた。

【新たな対策・視点及び改善点】

多くの方から継続の要望があり、各イベント毎のアンケート等を今後の講座内容の選定に反映させていく。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	森と緑の環境教育事業				
事 業 費	1,000,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,000,000		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	その他	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

事業目的に適した講師を選定。過去実績があるなど、様々なノウハウを持っている事業者を活用した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	各講演会等参加者 延べ 185名
期待する波及効果	森林の手入れや木製品の利用へ繋がる。

【公的関与の必要性】

町民に森林の大切さを伝える貴重な機会であり、町（行政）が行うのが適当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	イベント会場正面に設置
啓発物品配布	実施中	イベント参加者全員に配布
チラシ等配布	実施中	イベント案内チラシに県民税を使用した事業と明記し、県民税についての説明文も記載、紀宝町内全戸に配布
アンケート実施	実施中	イベント参加者全員にアンケート用紙を配布
その他	実施中	イベント参加者全員に県民税のパンフレットを配布

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

各イベントには県外からの参加者もいるが、このような先進的な取り組みをしている三重県はすばらしく、自分の住む県でも同じような取り組みをしてほしいとの声が多く寄せられている。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町
------	-------------	-----	-----

事業名	森と緑の環境教育事業
-----	------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
講師委託料（講演会・ワークショップ等）		式	1.00			
以下内訳	豊かな里山づくり講座・ ワークショップ委託	回	各 1		200,000	
	里山スライドトーク・ ワークショップ委託	回	各 1		500,000	
	森と緑の講演会委託	回	1		300,000	
		合計			1,000,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と緑の環境教育事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

2023/9/7 獣害に強い豊かな里山づくり講座(座学編)



写真2

2023/9/8 獣害に強い豊かな里山づくり講座(実践編)



写真3

2023/10/1 写真家・今森光彦さん里山ワークショップ



写真4

2023/10/1 写真家・今森光彦さん里山スライドトーク



写真5

2024/2/4 児童書作家・富安陽子さん講演会



写真6

写真6

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
3	三重の木ベンチ設置事業				
事 業 費	825,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
				825,000	

1. 事業の目的	
公園や遊歩道に三重の木を使ったベンチを設置することで、県産材の消費と木に親しむ環境づくりを行う。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 公園や遊歩道に三重の木を使ったベンチを設置する。 【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】 紀宝町 【実施個所及び箇所数】 大里親水公園 1 箇所、遊歩道 1 箇所 【事業量】 ベンチ 6 基	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【事業実施により期待される効果】 ベンチの設置により、大里親水公園及び遊歩道利用者の利便性の向上と、木に親しむ環境づくりを行う。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 ベンチに「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」のプレートを取付けて三重県産材の利用のPRを図った。 【新たな対策・視点及び改善点】 住民からの要望も多く、事業効果が高いことから、今後も継続して事業に取り組んでいく。	

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	三重の木ベンチ設置事業				
事 業 費	825,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
				825,000	

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	森林組合	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

三重県産材を使用してベンチを設置するにあたり、森林組合以外の業者で対応できる業者がないため。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	大里親水公園・遊歩道利用者
期待する波及効果	町民の方に憩いの場として利用者の増加が期待できる。

【公的関与の必要性】

町民に三重県産材のPR及び森林の大切さを伝えることができるため、町が関与するのが適当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町による管理のもと、転用や目的外使用は想定されていない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・後	
ロゴマーク掲示(シール・プレート等)	実施後	大里親水公園、遊歩道

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

散歩コースの休憩の場ができることにより、大変ありがたいとの声を頂いている。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	紀宝町
------	-------------------	-----	-----

事業名	三重の木ベンチ設置事業
-----	-------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
ベンチ設置	備品購入費	式	6.00	137,500	825,000	農林水産業費：林業費：林業振興費：備品購入費
		合計			825,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	三重の木ベンチ設置事業
-----	-------------

7の(1). 写真



写真1

ベンチ設置①(鵜殿地区遊歩道)



写真2

ベンチ設置②(鵜殿地区遊歩道)



写真3

ベンチ設置③(鵜殿地区遊歩道)



写真4

ベンチ設置④(大里親水公園)



写真5

ベンチ設置⑤(大里親水公園)



写真6

ベンチ設置⑥(大里親水公園)